

日支關係ヲ調整セサルヲ得サル退引ナラヌ立場ニ立タシ

ル譯ナリ

ムルモノニシテ蔣トシテハ二中全會ニ於テ公約セル領土  
主權ノ確保及内政不干涉ノ二條件ニ抵觸セサル方法ナラ  
ハ必スヤ日本トノ妥協ニ全力ヲ注クヘキ力要スルニ蔣ノ  
態度ハ一ニ今次ノ成都事件其ノ他ニ關スル日支會談(北  
支問題カ最大ノ問題タルコト勿論ナリ)ノ結果如何ニ懸

三、來ル十六日李宗仁ノ綏靖主任就任式アル筈ニ付白崇禧ハ  
十七日ニアラサレハ廣東ニ來ラサルヘク蔣ノ歸寧ハ其ノ  
後間モナクナルヘシ云々

支、北平、在支各總領事、廈門、香港へ轉電セリ

## 2 西安事件

853

昭和11年12月13日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件発生および中央常務委員会の対策決

議につき高宗武内話について

別電

昭和十一年十一月十三日発在南京須磨總領事

より有田外務大臣宛第一〇三五号

右決議

南京 12月13日前發  
本省 12月13日後着

第一〇三四號(大至急)  
 十三日早朝高宗武ハ十二日午前三時蔣介石ハ西安ニ於テ  
 張學良ニ抑留セラレタル旨ノ簡単ナル消息昨夜十一時入手  
 シタルニ付直ニ十一時半ヨリ中央常務委員會ヲ開催シ別電  
 第一〇三五號ノ如キ決定ヲ爲スト共ニ他方昨日午後三時頃  
 西安兵變ノ簡單ナル報道モアリ四時當地航空委員會ヨリ不  
 取敢偵察機ヲ送リ置キタルニ付何レ本日中ニハ更ニ詳細判  
 明スヘシト内報越セリ

支、在支各總領事及香港、重慶、鄭州、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(別電)

南京 12月13日前發

本省 12月13日後着

第一〇三五號(大至急)

十二日夜中央常務委員會決議左ノ通

(行政院ハ副院長孔祥熙ニ於テ責ヲ負フ

(軍事委員會常務委員ヲ五人ヨリ七人ニ増加シ何應欽、程

潛、李烈鈞<sup>(鈞)</sup>、朱培德、唐生智、陳紹寬ヲ常務委員ニ追加

(軍事委員會ハ副委員長馮玉祥及常務委員ニ於テ責ヲ負フ

(四軍隊ノ指揮ハ軍事委員會常務委員軍政部長何應欽ニ於テ  
 責ヲ負フ(五張學良ノ本兼職ヲ褫奪シ軍事委員會ノ查問ニ附シ其ノ軍  
 隊ハ軍事委員會ニ直屬セシム

~~~~~

西安事件の発生状況および原因に関する情報  
について

上 海 12月13日後発  
本 省 12月13日後着

<sup>(1)</sup> 第九九八號(大至急)

十二日ノ南京中央社電ハ同日朝西安ノ張學良ハ所屬部隊ヲ率ヒ叛變シ同時ニ通電ヲ發シ政府ノ推翻ヲ主張シ蔣ニ最後ノ諫言ヲ爲シ西安ニ監禁セリトノ報道アリタル爲同夜十一時半中央常務及政治委員會臨時連席會議ヲ開催シ行政院ハ孔祥熙、軍事委員會會議ハ馮玉祥ト何應欽、程潛、李烈鈞<sup>(鈞)</sup>、朱培德、唐生智、陳紹寬ヲ加ヘタル常務委員會、又軍隊ノ指揮ハ何應欽ヲシテ夫々負責辦理セシムル旨及學良ヲ免職嚴辨。ニ附シ所屬軍隊ハ軍事委員會ノ直接指揮ニ屬セシムル旨決議セル由報道シ居ル處

同夜當地孔祥熙邸(孔ハ十二日夜南京ニ向ヘル由)ノ當地要人連會合ニ參列セル財政部次長徐堪(十一日來滬)カ某有力支那人ニ内話セル所ニ依レハ(出所極祕)學良ハ蔣介石カ容

共、對日即時宣戰布告及政府ヲ西安ニ設置スヘキ旨要求シ國民政府ニモ同様要求シ來レル趣ナル處今次叛亂ノ原因ニ付テハ一般ニ學良等ハ豫テ剿匪ヲ理由ニ西北地方ニ追遣ラレタルコトニ頗ル不満ヲ懷キ全然戰意ヲ缺キ一部ニハ共產黨ト内通スル者スラアリト傳ヘラレ居タルカ最近蔣介石直系蔣鼎文ノ西北剿匪前敵總司令任命ハ遂ニ之カ不満ヲ爆發セシメタルモノナリトノ觀測行ハレ居リ又支那人筋ニテハ

今次ノ叛變ハ共產軍ト狎合ノ上ノ仕業ナリトカ又ハ蔣力學ノナリ等種々取沙汰行ハレ居ルト共ニ昨夜南京ノ會議ニ於テ政治軍事ノ責任者ヲ任命シタル點ニ照ラシ蔣ハ既ニ殺害セラレタルニアラスヤトノ說アルモ且下ノ處蔣ノ生死說相半ス

北平、在支各總領事、香港、滿ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

855 昭和11年12月13日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

國民政府中央が討伐の舉に出る場合は蔣介石

殺害も辞せずとの張學良意向を在中国獨裁大  
使内話について

南 京 12月13日後発  
本 省 12月13日後着

第一〇三七號

往電第一〇三六號ニ關シ

本十三日獨逸大使來訪ノ際大シテ當ニナラサル顧問側ノ消息ナリトテ學良ハ財政困難ノ爲何等カ政治的ノ血路ヲ見出ス爲數箇月前ヨリ廣西派トモ聯絡シ日支關係ノ機微ナル此ノ際「クーデター」ヲ爲サハ將領中ニニ策應スル者多カルヘシト見込ミタル仕業ナルカ既ニ西安ニ蔣介石ト同行シタル獨逸顧問ヨリノ内報ニ依レハ學良ハ蔣介石ニ於テ下野ヲ表明スルカ或ハ國民政府ヲ聯露抗日ノ基礎ニ依リテ改組スルカノ一途ノ孰レカヲ擇ハシメ右聽カレス南京政府カ張討伐ノ擧ニ出ツル場合ニ於テ始メテ殺害ヲ辭セサルコトトナルヘシトノコトナル趣ナリト内話シ居タリ

支、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

857 昭和11年12月13日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件発生の誘因および宋子文による中国  
幣制維持の動きに関する情報について

上 海 12月13日後発  
本 省 12月13日夜着

昭和11年12月14日 在南京須磨總領事より  
西安事件に関する国民政府明令および孔祥熙  
通電など報告

第一〇〇三號(大至急)  
往電第九九八號ニ關シ

其ノ後支那人筋ニテハ學良ハ綏遠問題カ南京側ニ有利ニ進ム形勢ニアリ斯クテハ蔣介石ノ同人ニ對スル壓力増大シ行々

ハ自滅ニ至ルヘキヲ豫想シ之ト相似タル狀態ニアリ且豫テ一脈通スル共產軍ト聯携ヲ保チタル上今回ノ舉ニ出テタルモノト見ラルルカ(蔣鼎文モ監禁セラレ居ルトノ說有力)抗

日人民戰線派ハ勿論西南派及中央ノ或一部(孫科、馮玉祥等)蔣直系軍隊ノ急進分子、閻錫山、楊虎城等トノ聯絡モ或程度取り居ラレタルニアラスヤトノ說ヲ爲ス向アリ尙謀報ニ依レハ當地ノ英國銀行家ハ商工會議所ニ集合シ支那幣制維持ノ爲取ルヘキ政策ニ付密議ヲ凝シ居ル處右ハ本日歸滬ノ宋子文カ經濟恐慌ヲ防止センカ爲英國業者ニ申入レタル結果ナリトノコトナリ

北平、在支各總領事、香港、滿洲轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

#### 二、孔祥熙通電(十二日全國各省市宛)

中央同人ハ公敵ニ對シテハ素ヨリ決心アリ救國ノ策トシテハ主權及領土ノ完成ニ努力セサルヘカラス而シテ此ノ目的達成ノ爲ニハ國內ノ完全ナル統一ヲ要ス蔣院長ハ此

第一〇四一號  
張學良兵變ニ關スル各種事項一束左ノ通

#### 一、國民政府明令

國民政府ハ昨十三日附ヲ以テ西安事件ニ對シテハ政府ハ適當ノ措置ニ出ツヘク各機關一切ノ政務ハ既定方針ニ基キ平常通り遂行スヘシ國民ハ謠言ニ惑ハサルルコトナク業ニ安ンセヨ唯不逞ノ徒機ニ乘センコトヲ恐ルルカ故ニ軍事委員會ヲシテ必要ノ地域ニ戒嚴ヲ宣布セシム云々

トノ旨ノ明令ヲ發セリ

#### 三、馮玉祥ノ保障トナルヘシ

一、他人ノ離間策ニ乘セラルルコト勿レ  
二、要スルニ誤解ヲ解クト共ニ國事ヲ議スルニ於テハ一切

ノ困難ハ解除シ得ヘク双方公私共裨益スル所アルヘシ兄ノ處分ノ點ハ蔣介石サヘ釋放セハ取消万何トカ斡旋スヘシ

明察ノ上回答ヲ請フ

#### 四、全國青年將領通電

胡宗南、黃杰等百七十餘名ノ全國青年將領ハ十三日中央ニ對シ即日學良討伐命令發出アリタキ旨ノ請願電ヲ發シ

タルカ右ニ關シ何應欽ハ命ヲ待ツヘキ旨回電セル趣ナリ  
三、地方將領ノ中央擁護電  
閻錫山、宋哲元、余漢謀、何健、何成濬、韓復榘及萬福麟等ハ中央ノ命アラハ部下ヲ率ヒ直ニ張討伐ニ向フヘキ旨夫々中央ニ電報セル趣ナリ

一、先ツ蔣介石ヲ釋放歸京セシメ然ル後要求アラハ提出セ

ヨ蔣ハ革命軍人ニシテ磊落淡白ヲ旨トスル人物ナレハ

必ス之ヲ承諾スヘシ抗日ノ意思モ亦然リ

猶大レニテモ不安ナラハ知友多數ト共ニ貴地ニ居住シ

ノ目的ニ向テ邁進シ功績顯著ナルモノアリ然ルニ意外ニ

モ經遠ノ決戰正ニ酣ニシテ國家存亡ノ懸ル秋ニ方リ西安ノ變。故ヲ見ル支那ノ前途ニ關係スル所大ナリ但シ大義ヲ明カニシ愛國心ニ長スル我國民ハ一致中央及既定方針ヲ擁護シテ國家ノ統一ヲ完成シ地方長官亦中央ニ忠誠ヲ致シ中央ト一致ノ進行ヲ爲スヘキヲ確信ス此ノ危機ニ際シ祥熙及中央同人ハ政務一切ヲ平常通り遂行シ蔣院長ノ既定方針ニ從ヒ國家ト共ニ上下一致最大ノ努力ヲ以テ國家ノ安全ヲ策セントス云々

#### 三、馮玉祥ノ學良宛電報(十三日)

通電ヲ讀ミ軍事ハ言ハスモカナ國家ニ大功勞アル蔣介石ヲ抑留シタルヲ知リ驚駭ニ堪ヘス此ノ國難非常時ニ方リ猶内争ヲ事トシ國本ヲ動搖セシムルヲ許サルヘキヤ兄ノ爲左記卑見ヲ開陳ス

一、先ツ蔣介石ヲ釋放歸京セシメ然ル後要求アラハ提出セ

ヨ蔣ハ革命軍人ニシテ磊落淡白ヲ旨トスル人物ナレハ

必ス之ヲ承諾スヘシ抗日ノ意思モ亦然リ

上海總工會及百餘ノ各種總工會ヲ始メ各地方ノ商工團體黨部等ハ夫々中央擁護ノ通電ヲ發セリ

七、學良通電連名者(十八名)ニ關シ中央ハ何柱國、王以哲、

繆、徴、流、董、英、斌、于、學、忠、五、名、ハ、兎、三、角、楊、虎、城、陳、誠、朱、紹、良、蔣、鼎、文、衛、立、煌、萬、耀、煌、陳、繼、承、馬、占、山、錢、大、鈞<sup>鈞、</sup>邵、力、子、等、ハ、皆、無、斷、名、ヲ、騙、ラ、レ、タル、モノ、ナ、リ、ト、發、表、シ、居、レ、リ

八、往電第一〇三五號ノ〔〕ハ、曩ニ任命濟ナル白崇禧ヲ加ヘ七支、北平、天津、滿、轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

859 昭和11年12月16日 有田外務大臣より  
在中國川越大使、在滿州國植田大使他  
宛(電報)

### 西安事件に対するわが方針について

付記 昭和十一年十一月十五日付、東亞局第一課作成

「西安事件ニ伴フ對支時局對策陸軍案ニ關スル件」

本省 12月16日発

\*合第九九號

今次西安事件ニ關シテハ眞相未夕判明セス從テ帝國政府ト

### (付記)

#### 十一、十二、十五

##### 西安事件ニ伴フ對支時局對策陸軍案ニ關スル件

シテハ差富リ在支居留民ノ保護並ニ權益ノ擁護ニ專念スルト共ニ適確ナル情勢ノ把握ニ努メ真相ノ判明スルヲ待ツテ慎重方策ヲ決定セルトス尤モ東亞ニ於ケル赤化勢力ノ侵出防止ハ我國策ノ根幹ナルヲ以テ中央ハ勿論地方政府ニシテ容共聯蘇ヲ標榜スルガ如キハ帝國トシテ黙過シ得サル所ナリ從テ之力監視乃至指導ニ就テハ各地共萬遺算ナキヲ期セラレ度尙今次ノ事件ヲ利用シ問題ノ急速解決ヲ計ラントスルカ如キハ却テ帝國ノ立場ヲ不利ナラシムルコトトナリ面白カラサルニ付御注意アリタシ

令ヲ受取リタル出先ニ於テ此ノ機會ヲ利用シ北支及内蒙工作ヲ特ニ促進スヘキモノト解シ策動シ却テ西安事件ヲ契機トスル支那内部ノ自解作用ヲ阻止スル結果トナル惧

アリ又〔〕ノ中南京政權攻撃ノ聲明ヲ發表スルコトニ付テハ本對策案方針冒頭ニ掲ケタル「支那民心ノ把握ニ遺憾ナカラシムル」ノ方針ト背馳スル結果トナラサル様慎重考慮スル必要アリ旁々〔〕ハ虛心坦懷ニ之ヲ見レハ何レモ趣旨トシテハ異存ナキモ此ノ際本對策案中ニ插入スル時ハ誤解ヲ起ス惧アルヲ以テ削除方然ルヘキ旨軍側ニ通報セリ

二、右ニ關聯シ十五日午前東亞局長室ニ於テ陸軍側(磯谷軍務局長、石本軍務課長、園田中佐)海軍側(豐田軍務局長、保科一課長)外務側(桑島局長、上村課長、太田事務官)事務當局會合シ意見ノ交換ヲ行フコトトナリ其ノ際陸軍側ヨリ改メテ別紙〔〕號對策案ノ提示アリ  
磯谷局長ヨリ本對策案ハ陸軍部内ニ於ケル方針トスルモノニシテ其ノ儘出先ニ訓令スルモノニ非ルニ付趣旨ニテ異存ナクハ外、海側ニ於テモ同意セラレ度キ旨述フル所アリタリ

三、仍テ一應右陸軍側説明ノ通リノ諒解ノ下ニ於テ検討シタル所左ノ通り

(1)要領ノ〔〕中對支實行策ヲ踏襲促進シトアル點ニ關シ外、海共右辭句ノ使用ニ依リ出先ニ對シ此ノ機會ヲ利用シ無理ニ促進ノ氣持ヲ起サシムル惧アリトノ意見ヲ述べタル處磯谷局長ハ前記説明ノ通り本案ハ其ノ儘出先ニ電報スルモノニ非ス例ヘハ本項ヲ電訓スル場合ニハ關東軍ニ對シテハ絶對ニ「促進ス」ト云フカ如キ積極的ノ言葉ハ使用セサルコトヲ茲ニ明言スル旨述ヘタルニ依リ外、海共右言明ニ信賴スルコトトセリ

(2)要領ノ〔〕ノ前半「帝國ノ防共態度ヲ一層明ニシ」ナル一句ト其ノ後ニ續ク南京政權攻撃ノ部分トハ首尾一貫セス此ノ際直ニ南京攻撃ノ聲明ヲナスコトニ付テハ前顯機微ナル考慮ヲ必要トスヘキ旨ノ意見出テタルカ結局陸軍側ハ防共態度ヲ明ニスルコトト南京政權ノ對外政策カ一般民衆ノ幸福ニ反シタル所以ヲ闡明スルコトハ思想上別個ノ問題ニテ相關聯セシムル必要ナシ  
依テ帝國ノ防共態度ノ闡明ハ是非此ノ際速カニナスヘキモノナルモ南京政權攻撃ノ點ハ右トハ別ニ時機方法

ヲ考慮シ差支ナシトノ言明ヲナシタリ

(イ)及(四)ニ付テモ前記(一)ノ危惧ノ意見出テタルカ磯谷局長ヨリ本項モ此ノ機會ヲ利用シ支那ノ自解作用ヲ阻止スルカ如キ無理ナル工作ハ絶対ニ行フ意嚮ナク單ニ軍

側内部ノ心構トシテ記載シ置クモノナリトノ説明アリタルニ依リ右説明ヲ諒承シタリ

(二)内ノ末段所要ノ警告ノ點モ方針ヲ記載スルニ止メタルモノナリトノ説明ニ信頼スルコトセリ(海軍側ヨリ

ハ單ニ列國ノ行動ヲ牽制スルカ如キ消極主義ノミナラス寧ロ積極的ニ此ノ機會ヲ利用シ我方ニ於テ支那ノ民心ヲ把握シ政權ヲ我方ニ引付クル様對策ヲ樹立スル必要アル旨力説セリ)

以上陸軍側ノ説明ニ依リ右説明通りナルニ於テハ事務當局トシテハ本對策案ニ異存ナシトノ結論ニ到達セリ

(別紙甲号)

西安事件ニ伴フ對支時局對策案  
方針

帝國ハ依然既定ノ對支方策ヲ堅持シ特ニ公正ナル態度ヲ以

テ之レニ臨ミ支那民心ノ把握ニ努ム

然レトモ各地政權力從來ノ政策ヲ是正スルコトナク更ニ容共反日風潮激化シ帝國居留民ノ安至又ハ在支權益ヲ侵害セラルカ如キ事態ニ到ラハ自衛權ノ發動ヲ躊躇セス

要領

一、今次事變ニ對シテハ從來ノ方針ヲ變更スルノ要ナク既定ノ外交方針及對支實行策ヲ踏襲促進シ事態ノ推移ヲ監視シアルヲ要ス

二、帝國內外各機關ハ特ニ進退ヲ公明ニシ謀略的策動ヲ慎ミ支那民衆並ニ列國ニ我帝國ノ態度ヲ疑ハシムルカ如キコトナキ様留意ス

三、學良舉事ノ聲明ニ照シ動モスレハ對日空氣ノ惡化ヲ來シ在支帝國居留民並權益ノ侵害セラルノ虞必シモ無シトセサルヲ以テ斯ル狀勢ニ於テハ機ヲ失セス自衛ノ手段ヲ採リ得ル準備ヲナス

四、列國此機ニ乘シ賣恩的行動ニ依リ支那各地政權其他ノ觀心ヲ把握セントスルカ如キコトナキヲ保シ難ク嚴ニ警戒シ如此キ場合ハ要スレハ所要ノ警告ヲ發ス

五、北支各政權ニ對シテハ嚴ニ其動向ヲ監視シ第二次北支處

理要綱ノ實現ヲ促進シ且ツ機ヲ見テ山東ノ防共協定加入ヲ期ス

六、内蒙方面ニ對シテハ既定ノ方針ニ基キ施策シ成ル可ク速ニ内面的政治工作ニ依リ綏遠政權ヲ反共ニ導キ蘇聯ノ北方ヨリスル策動ヲ封ス

七、機ヲ見テ帝國ノ防共態度ヲ明ニシ從來南京政權ノ海外政策カ一般民衆ノ幸福助長ニ反スル所以ヲ闡明シ以テ支那民心ノ把握ニ遺憾ナキヲ期ス

(別紙乙号)

西安事件ニ伴フ對支時局對策案  
方針

帝國ハ依然既定ノ對支方策ヲ堅持スルト共ニ公正ナル態度ヲ以テ本事件ニ臨ミ支那民心ノ把握ニ遺憾ナカラシム然レトモ南京政權其他各地政權力從來ノ政策ヲ是正スルコトナク更ニ容共反日風潮激化シ帝國居留民ノ安至又ハ在支權益ヲ侵害セラルカ如キ事態ニ到ラハ自衛權ノ發動ヲ躊躇セス

六、列國此機ニ乘シ賣恩的行動ニ依リ南京政權其他各地政權等ノ觀心ヲ把握セントスルカ如キコトナキヲ保シ難ク嚴

要領

二警戒シ如此キ場合ハ要スレハ所要ノ警告ヲ發ス

(欄外記入)

十四日園田中佐持參。本案發電ニ對スル外務省意見至急回示方  
依頼アリタリ

~~~~~

860 昭和11年12月16日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

西安事件發生後の上海金融事情につき李銘浙 江實業銀行總經理内話について

上 海 12月16日後発 本 省 12月17日前着

第一〇三〇號  
(<sup>①</sup>商務官ヨリ)

當地金融事情ニ付李銘(浙江實業銀行總經理、前中國銀行  
董事長)ノ内話左ノ如シ  
今回ノ兵變ハ支那ノ新建設ヲ根底ヨリ覆ス程ノ大事件ニテ  
寔ニ痛心ニ堪ヘス且下ノ狀況ハ蔣介石ノ安否ニ關シ樂悲兩  
様ノ報道カ頻々トシテ傳ハリツツアル爲一般ノ關心ハ蔣ノ

從テ當地金融狀況モ事變前ニ比較シ左シタル變化ナキモ此  
ノ狀態カ相當續キ愈蔣介石殺害ノ確報カ公表サル時ニハ  
蔣ニ代ル人物ナキコトヲ確信スル一般人氣ハ各市場ヲ混亂  
ニ陥レルモノト密ニ覺悟シ居レリ  
英國系銀行カ何處迄「サポート」スルカハ疑問ナルカ貿易  
尻ノ關係及最早逃避シ得ル融資ナキ現狀ヨリ見テ對外爲替  
維持ハ可能ト考フ國內通貨ノ信用維持ハ對外爲替ノ維持ニ  
主力ヲ注クトキハ左シタル心配ハナカルヘク但シ金融逼迫  
ニ依リ相當紙幣ノ增發ハ免レサルヘシ  
要スルニ現在ハ未タ民心カ蔣ノ安否ニ集中シ一報道ノ度每  
ニ一喜一憂シ善後策ヲ講スル迄ノ心境ニ至ラサル混沌狀態  
ト言フヘシ  
當地支那銀行側ハ結束ヲ保チ非常時ニ對應スル申合ヲ爲シ  
タルカ將來ノコトハ未タ見透シ付カサルモノト言フ方然ル  
ト言フヘシ  
在支各總領事、香港、北平、滿ヘ轉電セリ  
~~~~~

861 昭和11年12月17日 有田外務大臣より 在中國川越大使宛(電報)

蔣介石の健在など西安事件に関する許大使の  
情報開示に對し重大関心をもつて事態を注視  
するとのわが方立場を有田外相表明について

本 省 12月17日発

\*第三〇八號

(3)貴大臣ハ新聞記者ニ對シ日本政府トシテハ事態ヲ靜觀

一、十七日許大使來訪シ國民政府ノ訓電ニ依ル次第二ハ非ル  
モ今次西安事件ニ對シテハ日本ハ上下共多大ノ關心ヲ有  
セラルコトト存スルニ付自分ノ知レル限りノ情報ヲ御  
傳ヘスルコト致スヘシト前提シタル後、大要

(1)西安事件ノ發生ニ對シ國民政府ハ極メテ冷靜ナル態度

ヲ持シ居ル處例ヘハ劉以下三十七名、胡宗南以下三百

三十六名聯名ノ通電等各省主席、綏靖主任、將領等ニ  
シテ中央擁護乃至ハ學良討伐ノ意図ヲ表明セルモノ極

メテ多キノミナラス各地ノ商會、學校、言論機關等何  
レモ學良反對ヲ聲明シ居レリ

(2)各省市ノ人心ハ依然平穩ナルノミナラス上海等ノ金融  
狀態モ殆ド從來ト變リナク又外交方針ニ關シテハ未タ

二、右ニ對シ本大臣ヨリ蔣院長ノ御健在ナルヲ聞クハ甚夕欣  
快トスル所ニシテ今次事件ハ日本ニトリ影響スル所極メ  
テ大ナルヲ以テ日本政府ニ於テハ重大關心ヲ以テ事態ノ  
推移ヲ注意シ居ル譯ナルカ新聞報道等ニ依レハ張學良ハ  
蔣院長ニ對シ對日即時開戰、容共聯蘇等ヲ主張シ右カ容  
レラレサリシ爲今回ノ舉トナリタル趣ノ處之カ事實トセ

ハ今次ノ事件ハ國民政府ニトリー一大教訓ヲ與ヘタルモノ

ト云フヘシ國民政府ノ内外ニハ容共聯蘇ヲ主張スルモノ

極メテ多キニ付此ノ際一大決心ヲ以テ之カ肅正ヲ計ルノ  
要アルヘシトノコトハ豫テ屢々御話シタル所ナルカ今回

ノ事件ニ依リ政府部内ニ容共抗日ノ有力ナル分子ノ存在

セル事實カ一層明トナレル譯ナリ東亞ノ平和又帝國ノ安

全ノ爲メ隣邦ノ赤化ハ日本ノ關心措ク能ハサル所ニシテ  
容共聯蘇ヲ主張スルモノニ對シテハ中央政權タル場合ハ

勿論其ノ地方政府タル場合ト雖モ日本トシテハ之カ速ニ  
壞滅セムコトヲ希望スル次第ナリトノ趣旨ヲ述へ置ケリ

~~~~~

862

昭和11年12月17日

有田外務大臣より  
在中國川越大使宛(電報)

### 西安事件に伴う中國經濟動搖に対するわが方 方針について

付 記 昭和十一年十二月十九日付移牒、橋本支那駐

屯軍參謀長より西尾參謀次長宛電報

西安事件により中國經濟破綻の場合に採るべき  
わが方方策について

第三〇九號

本省 12月17日後5時45分発

支那側ハ西安事件ノ勃發ニ伴フ通貨制度、爲替相場ノ動搖  
ヲ防止スル爲極力努力シ居ル模様ナルカ本件ハ帝國ニ取り

テモ重大利害關係ヲ有スル次第ニ付事態ノ推移ニ伴フ對策  
ニ就テハ目下慎重考慮中ナルモ差シ當リ在支本邦銀行ニ

テハ此ノ際必要ナル措置以外積極的ニ支那側ノ經濟的困難  
ヲ助長惡化スルカ如キ行爲ニ出テサル様適宜御指導相成度

本件大藏省ト協議濟ミ  
在支各總領事、北平、香港ヘ轉電セリ

支ヨリ上海、商務官へ轉報アリタシ

(付記)

天 津 發

參謀本部 着

南京政府ハ英、米ヲ賴ミ爲替相場下落防止ノ爲極力努力ヲ  
拂ヒアリ然レトモ蔣介石ノ死去明白トナラハ在外資金(一  
億四、五千萬元ト稱ス)ヲ以テ糊塗スルニ過キス  
情勢ノ變化ニ伴ヒ法幣ノ對内價值暴落シテ支那幣制ノ大混

南京 12月18日後発  
本省 12月18日夜着

甲、本十八日張群ニ御趣旨ヲ申入レタル處張ハ深厚ナル謝  
意ヲ表シタル後只今許大使ヨリ昨日貴大臣トノ會談ヲ電  
報越シ居ル處其ノ内ニ於テモ貴大臣カ今次事變ニ際シ同  
情アル靜觀的態度ヲ執ラレツツアル旨ヲ述ヘ居リ今次ノ  
事變ハ却テ日支關係ヲ好轉セシムヘキ機會トモ考ヘラル  
ルニ付此ノ際自分ノ個人的切望トシテ聞キ大臣ニ傳達ア  
リ度シトテ左ノ通り述ヘタリ

一、國民政府ハ飽迄共產主義及共產黨ニ反對シ來リ今後モ  
今ノ組織力續ク限り此ノ趣旨ノ貫徹ヲ期スヘキ處今回  
學良ノ建前モ單ナル容共主張ナラハ格別懸念ヲ要セサ  
ルモ學良ノ狙所ハ先ツ國民大多數ノ支持ヲ得ントシ之  
カ爲方便ナルヘキカ抗日ヲ掲ケ居ル點ハ自分等トシテ  
其ノ處理ニ最機微ナル注意ヲ要スル點ニシテ容共ニ反  
策ヲ考究セラルルヲ至當ナリト信ス(東京以外參考迄)  
~~~~~

863 昭和11年12月18日 在南京須磨領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件を日中關係好転の機会と捉え内蒙お  
よび華北問題に対し日本側が重大な考慮を払  
うことを張群切望について

ヲ撲滅シ度キ處之力爲ニハ少クトモ日支關係ノ明朗化

ヲ豫想セシムル狀態ヲ作ラサルヘカラス

二、日本政府モ等シク此ノ點ニ思ヲ致サレツツアリトハ信

ズルモ事變以後頻繁ニ入手スル情報ニ依レハ關東軍カ

此ノ機會ニ百靈廟ノ克復及綏東六縣ノ回収ヲ策シツツ

アリトノコトナルノミナラス平津方面ニハ又復北支五

省自治ノ話モ持上リ居ル様子ニテ且此ノ種ノ情報ハ東

京方面ヨリモ傳ハリ來リ政府部内ハ憂慮ヲ重ネツツア

ル次第ナレハ若シ此ノ種ノ形勢カ不幸展開センカ日支

關係ヲ好轉セシメントスル自分等ニ於テ努力ノ餘地ナ

ク自然全然主張ヲ異ニスル者ノ手ニ政權ヲ移ラシムル

コトトナル懼モアリ此ノ點ニ付日本當局ニ於テハ重大

ナル考慮ヲ致サレ度シ

乙、部長ノ談話ニ對シテハ本官ヨリ我方ニ於テ從來主張シ

來リタル防共等ニ付早ク決心セハ懸念ハ無用ナル次第ヲ

詳シク應酬シ置キタルカ張ハ此ノ際ハ日本ノ好意カ十倍

ニモ響ク時故從來ノ行懸等ニ拘泥セラレス兩國關係ノ好

轉ニ資スル措置ニ出テラレ度シト繰返シ居タリ

864 昭和11年12月18日 在中國川越大使より  
西安方面の赤化狀況に關し楊虎松滻警備司令  
内話について

上海 12月18日後発

本省 12月19日前着

#### 第一〇四七號

淞滬警備司令楊虎ハ十七日清水ニ對シ今次ノ西安事件ハ張學良ノ部下カ赤化シタルニ基クモノナルコトハ事實ト認メ

ラルルカ右ハ東北大學出身者カ近年他ニ就職ノ途ナク多數

東北軍ニ入り政治訓練等ニ當リタルコトカ赤化思想宣傳ヲ

促進シタルモノト察セラル尙事件後西安方面ニハ共產黨員集マリツツアルヤノ情報モアリ今ノ處重要分子ハ尙人込ミ

居ラサル模様ナルカ時日ヲ遷延セハ西安方面ハ是等共產黨員ニ牛耳ラルルコトトナリ蔣介石ノ生命益々危險トナル惧

アリ旁蔣ノ救出ニ付テモ成ルヘク速ニ中央軍ヲ以テ東北軍ヲ包圍シ張學良ヲ一旦死地ニ陥ルコト有效ナリトノ理由ニ

テ討伐令ヲ發シタルモノト解シ居レリ當地ニ於テモ十五日

來戒嚴ヲ實施シ集會、游行等ヲ禁止シ殊ニ抗日人民戰線派

ヲ蒙ルヘシト述ヘ

(一)斯ル場合英國側ハ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ財界混亂防止ノ爲實質的援助ヲ爲スヤトノ問ニ對シ「ホ」ハ英國政府ハ資金的援助ヲ爲スヘシトハ思考セラレサルモ銀行筋ニ於テハ事件發生以來執り來レル措置即チ混亂防止ニ對シ自己ノ利益ニ從ヒ精神的ニ援助ヲ爲スモノト認ムル旨答へ右ハ英國系銀行筋ノミナラス外國銀行側ノ一致セル態度ト思ハル白耳義等モ最近支那ニ相當資金ヲ注キ込ミ居レハ恐慌回避ニ躍起ナルヘシト附言シ

西安事件の中国金融問題への影響につきホーリ・パツチと意見交換について

865 昭和11年12月20日 在中國川越大使より

有田外務大臣宛(電報)

第一〇五四號

時局金融問題ニ關スル「ホーリ・パツチ」ト曾禰ノ質疑應答左ノ通リ御参考迄

(一)蔣介石生還ヲ期シ得サル場合ノ財界ノ見透ニ付テハ「ホ」(兩三日前ニ南京ニ赴キタルコトアリ蔣ノ生命ハ目下安

全ト認メ居ル由)ハ實ニ右ハ測リ知ルヘカラサル惡影響

用ノ動搖ニ際シ「バルネラビリティー」ヲ増シタルモノト思フカ如何ト問ヒタルニ對シ「ホ」ハ大混亂ノ場合ニハ管理通貨ノ効用ヲ發揮シ居リ能ク爲替相場ヲ維持シレル外兌換請求銀行取付等ノ起ラサリシコトヲ認メサルヘカラスト答へタリ

尚「ホ」ハ英國大使ハ「クリスマス」ニ北平ニ行ク筈ナル

カ時局ニ鑑ミ目下滬寧方面ニ待機中ナル趣語レル由

商務官、財務官ニ轉報シ在支各總領事、香港、北平、滿ヘ

西安事件への関与および張学良との関係をソ連側が公式否定との報道について

上 海 12月20日夜着 本省 12月20日夜着

## 第一〇五五號

南京十九日發中央社電ハ同日午前「スピリワネク」ハ張群ヲ往訪シ蘇聯邦カ西安兵變ニ關與シ居レリトノ風評ヲ公式ニ否認シ蘇聯邦政府ハ兵變ニ關スル報道接受後直ニ其ノ態度ヲ明白ニシテ學良ノ行動ハ支那ノ統一ニ有害ナリト思考スル旨表明シタリ蘇聯邦政府ハ兵變ニ何等關係シ居ラサルノミナラス一九三一年ノ滿洲事件以後學良トハ直接ニモ間接ニモ全ク關係ヲ有セス又蘇聯邦政府ト支那共產黨トノ間ニハ何等ノ關係ナク政府ハ後者ノ行動ニ對シ責任ヲ取り得サル旨述ヘ最後ニ支那政府ニ於テ蘇聯邦カ西安兵變ニ關與シ居レリトノ風評ヲ取締ラル様希望セル旨傳ヘ居レリ

満、北平、在支各總領事、香港へ轉電シ上海へ轉報セリ

張學良の抗日援綏軍組織方通電を高宗武披瀝について

南 京 12月21日夜着 本省 12月21日夜着

第一〇七九號<sup>®</sup>

張學良、楊虎城ハ十七日附ヲ以テ抗日援綏軍ノ組織ニ關スル通電ヲ發シタルカ高宗武ヨリ(出所極祕)内密入手セル通電原文ヲ譯出スレハ左ノ如シ

日本人ハ匪僞ヲ驅使シテ綏遠ヲ侵略シ前線ニ於テハ我方屢勝利ヲ得ツツアルモ依然手ヲ緩ムルコトナク攻撃ヲ繼續スヘキニ付學良等茲ニ西安ニ於テ抗日援綏軍第一軍團ヲ組織シ孫蔚如ヲ軍團長ニ、王以哲ヲ副軍團長ニ、馬占山ヲ抗日援綏騎兵集團軍總指揮官ニ、何宏遠ヲ第一軍團砲兵指揮官ニ任シ日ヲ定メテ誓師北上シ仇敵ヲ殲滅シ失(地)ヲ回復セントス

支、北平、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

868 昭和11年12月21日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

計伐令に対する張學良対応振りおよび宋子文  
らの蔣介石救出に向けた動きなどに關し張群  
説明について

付 記 昭和十一年十二月二十一日付、海軍省軍務局  
作成

外務省より電話聽取した同月十九日発有田外務大臣より在中国川越大使宛訓令電報要旨

南 京 12月21日後發 本省 12月22日前着

第一〇八九號 第一〇八九號

川越大使ヨリ

本使二十一日午後四時半ヨリ約二時間ニ亘リ張群ト會談ノ要領左ノ通

一、先ツ本使ヨリ蔣介石ノ遭難ニ付見舞ヲ述ヘ張ハ深甚ナル  
謝意ヲ表シタルカ本使ヨリ西安方面ノ實狀竝ニ國民政府ノ態度方針ニ付質シタル處張ハ

(一)西安方面ノ實狀ハ唯一ノ交通路タル鐵道不通トナリ有

學良カスル暴舉ニ出テタルハ如何ナル信念ニ基クモノナリヤ判明セサルモ同人ハ元來知識、學問ニ淺ク其ノ反面野心ヲ逞フスル性質ヲ有シ近來ハ王樹幹、莫德惠、王樹常、劉哲ノ如キ東北系元老ヲ遠サケテ青年ヲ近付クル傾向アル處右ノ中ニハ共產黨モアリ國家主義者モアリ極メテ複雜ナルカ要スルニ夫レ等ノ影響ヲモ受ケ

タルヘク特ニ共匪討伐ニ失敗シ蔣ヨリ再三叱責セラレタル經緯モアリ此ノ際抗日ヲ看板トシテ起テハ相當ノ共鳴者ヲ得ル見込ノ下ニ計畫シタルモノト察セラルルカ其ノ共產軍トノ關係ハ今之ヲ明確ニスル材料ナキモ恐ラク學良ハ共產軍ヲ利用シ旁最近有力トナレル抗日人民戰線派ノ響應ヲ期待シ天下ヲ乘取ラントシタルコトハ事實ナルカ如シ尙最初楊虎城ノ態度ハ疑問ナリシモ其ノ後ノ情報ニ依レハ最初ヨリ學良ト共ニ事ヲ擧ケタルモノナルコト判明セリ

(1)國民政府ハ十二日學良叛亂ノ報ニ接スルヤ十三日直ニ學良ノ處分竝ニ蔣不在中ノ行政、軍事ノ責任者ヲ定メ事變ニ對スル方針ヲ一決シタルカ更ニ十六日討伐令ヲ發シ續々中央軍ヲ北上セシメ監禁中ノ蔣自身ハ素ヨリ政府ニ於テモ學良ノ主張ハ斷然之ヲ拒絶スル態度ヲ執リタル爲學良モ些カ見込外レ

蔣鼎文ヲシテ蔣介石ノ書翰ヲ持參セシメタルカ右ハ中央軍ノ攻撃ヲ遷延セシメン爲ノ手段ナルコト大體察知セラレタルモ不敢蔣鼎文ヨリ電報ヲ以テ十九日午後六時迄ニ蔣介石ヲ南送スルニ於テハ軍事行動ヲ停止ス

ルモ可ナル旨返答セシメ置キタリ然ルニ果シテ今日迄何等ノ誠意ヲ示サス政府トシテハ蔣介石ノ生命尊キモ國家ノ繁亡順逆ノ別ヲ明カニスル必要上此ノ儘放置シ難ク既定ノ方針ヲ堅持シテ昨日來軍事行動ヲ進メ既ニ華縣ニ在リシ學良軍ヲ驅逐シテ西進中ナリ

(2)蔣介石ノ救出ニ關シ宋子文ハ昨日西安ニ到着シタル筈ナルカ右ハ全ク私人トシテノ行動ニシテ政府ノ命ニ依リタルモノニアラス又閻錫山ハ過日學良ヨリノ使者ニ接シタルカ間ハ極メテ慎重ニ考慮シ趙戴文モ未タ西安ニ赴カス中央ノ方針ヲ尋ね來レルニ付黃紹竑ヲ太原ニ急派セリ蔣ノ救出ニ付テハ中央カ前記ノ通り斷然學良ノ要求ヲ斥ケ居ル一方學良側ニテモ相當强硬ニテ依然トシテ要求條件ヲ容レサレハ蔣ヲ釋放セストノ趣旨ヲ各方面へ電報シ自分モ二回程右電報ニ接シタルカ(最後ノ電報ハ昨日到着シタルカ最早返電セサルコトトセリト語レリ)之ニ依リテ見

蔣ノ救出ハ仲々容易ナラスト思考セラル「ドナルド」ハ最初西安ニ到リ蔣ノ生存ヲ見届ケ來レルカ「ド」ノ行動ハ餘り感心セス政府モ取合ハヌ方針ナリ(同席ノ

高宗武ハ「ド」ハ張學良ノ宣傳ヲ爲シ居ル模様ナリト洩ラセリ)

ト詳細説明セリ

三、<sup>(2)</sup>張ハ今次事件ニ對シ日本側ヨリ寄セラレタル同情ハ感謝ニ堪ヘス右ハ國交ノ上ニモ大ナル影響ヲ與フヘキ處ニ

三日前ノ情報ニ依レハ綏遠方面ニ於テ關東軍ハ蒙古軍ヲシテ再舉ヲ圖ラシムル準備ヲ爲シ居ルヤノ噂モアリ又冀察方面ニ於テモ此ノ機會ニ昨年ノ如キ自治運動ヲ再發セシメ政治工作ヲ進メントスル模様ナリトノ情報アリ若シ果シテ事實トセハ折角ノ支那側ノ好感ヲ裏切ルコトナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ我帝國ノ公正ナル態度ハ既ニ發表セル通リニテ今更説明ヲ要セサルヘシト告ケタルカ張ハ更ニ今次ノ事件ニ對シ日本トシテハ重大ナル關心ヲ以テ注視セラレ居ルコトハ承知シ居ルモ支那トシテモ日本ノ態度ヲ最重視シ居ル次第ナリト述ヘタリ

四、<sup>(3)</sup>最後ニ張ハ本日ノ會見ハ時局柄各方面ヨリ注目セラルヘキヲ以テ本使カ蔣介石遭難ノ見舞ヲ述ヘ其ノ生還ノ速力ナランコトヲ希望シ併セテ西安事件ノ真相ヲ質シタル次

第ヲ新聞ニ發表シ度シト希望セルニ付本使ハ之ヲ承諾シ

#### (付記)

十二月十九日外務大臣發川越大使宛訓電要旨

(一一一二一—二—電話聽取)

西安兵變今後ノ推移殊ニ蔣介石ト張學良トノ妥協行ハルル場合其ノ結果ノ如何ニ對シ帝國ガ重大關心ヲ有スルコトハ御承知ノ通ナル處最近情報ニモ鑑ミ此ノ際速ニ南京ニ赴キ張群其ノ他ニ接觸シ其ノ心境ヲ打診セラレ度尙過般在京許大使來訪ノ節大臣ガ若シ國民政府ガ張學良ノ要求セリト傳フル容共抗日ヲ採用スルガ如キ場合帝國ハ默視スルヲ得ザルベキ事其ノ他應酬ノ内容ヲ掲記スノ次第含ミ置カレ度

#### (附記)

本電ニ依リ大使ハ赴寧ノ上ハ南京政府ニ對シ帝國ノ同情的氣持ヲ表明スル外財政的援助等ニ關シテモ好意的考慮アル旨ヲ暗示スルモノト考ヘアリト(東亞局第一課長連絡ニ依ル)

尙東亞第一課長ヨリ

「諸情報ヲ總合スルニ蔣介石ノ生存説確カナルガ如ク列強使臣ハ南京政府ニ對シ同情的言動ヲ表示シ暗躍シツツアリ」トノ報アリ

編注 「財政的援助」の部分に、「本件ニ關シテハ襄ニ外務及大藏兩者ヨリ出先ニ訓令シアリ」との書き込みあり。

~~~~~

869 昭和11年12月24日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

宋子文らの西安往訪および金融安定策などに

関し孔祥熙内話について

南 京 12月24日前發  
本 省 12月24日前着

第一一〇八號  
川越大使ヨリ

二十三日本使行政院ニ於テ孔祥熙ト會見シ蔣介石ノ遭難ニ付見舞ヲ述ヘタル處孔ハ深甚ノ謝意ヲ表シタルカ西安事件ニ關シ孔ノ爲セル談話ノ中御参考トナルヘキ點左ノ通り

一、蔣介石ハ十二日朝襲撃ヲ受ケタル際一時寓居ノ裏山ニ逃

レタル爲幸ニ負傷セサリシカ宋子文ノ報告ニ依レハ目下腰部ニ疼痛ヲ覺エ(風邪ノ爲ト察セラル由)居ルノミニテ其ノ他ニハ別條ナキ由ナリ  
三、宋子文カ西安ニ赴キタルハ豫テヨリ宋美齡カ西安行ノ希望アリタルニ依リ之カ可否ヲ見定ムル爲ナリシカ其ノ結果目下ノ狀況ニテハ西安入差支ナシト認メラレ張學良モ其ノ安全ヲ保障スヘキ旨言質ヲ與ヘタルニ依リ再ヒ宋美齡ヲ携ヘ西安ニ赴キタル次第ニテ全ク私人トシテ行動シ居ルモノナリ

三、張學良ノ叛亂ハ全ク意外ニシテ外部ニアリシ張ノ近親者等モ最初ハ謠言ナルヘシトテ信セサリシ程ナルカ張ニ於テモ速ニ反省シ蔣ヲ釋放スルニ至ランコトヲ希望シテ已マス尤モ現在ノ處果シテ一般ノ希望通り無事蔣ノ歸寧ヲ見ルヤ否ヤハ全ク豫想シ得サル次第ナリ  
四、蔣介石ハ從來共東洋平和確保ノ爲日支國交調整ニ努力スル覺悟ナリシカ動モスレハ日本側ヨリハ其ノ誠意ヲ疑ハレ支那人ノ一部ヨリハ  
抗曰ノ氣概<sup>(氣概)</sup>ナシト罵ラレ兩方面ヨリ疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレ居リタルカ今回ノ遭難ニ依リ右蔣ノ決心ト覺悟トカ明

870 昭和11年12月24日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

蔣介石解放のため張學良の安全な国外退去を保障する共同措置を英國側提議に対し仏国が賛意表明について

付記 作成年月日、作成局課不明

「張學良外遊ニ關シ英國側申出ノ件」

南 京 12月24日後發  
本 省 12月24日後着

第一一二二號(至急)  
往電第一一〇三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本二十四日佛國大使ノ命ニ依ル趣ヲ以テ「クローゼル」須磨ヲ來訪シ本國政府ヨリ英國政府ノ提議ニ賛成ナレハ現地各國大使ト聯絡ノ上共同措置ニ參加方訓電越シタルカ英國大使モ支那側ヘノ申入方式等ニ關シ請訓中ノ趣旨ニモアリ又日本ノ態度未定ナレハ共同申入ノ時機ハ豫想付カサルニ付不取敢佛國大使ハ本日午後孔祥熙ヲ往訪前記本國政府訓令ノ次第丈ケヲ輕ク申入レ置ク筈ナルカ佛國大使自身トシ

支、在支各總領事、北平、滿洲へ轉電セリ

五 中国政情

テハ此ノ種共同措置カ果シテ英本國政府ノ發案ナリヤ將又英國大使ノ孔祥熙ニ話シ見タル思付ナリヤ見當付カス何レニスルモ支那政府カ政府トシテ之ヲ受諾スヘキヤ疑ハシク又若シ列國カ此ノ種ノ措置ヲ執ルトスルモ支那政府ノ方ヨリ先ツ依頼アリテ後發動スヘキモノナリトノ意見ナルモ兎モ角訓令ニ依リ關係國ノ執ルヘキ措置ニ「フォロー」スル手筈ナリト語レリ

支へ轉電セリ

#### (付記)

張學良外遊ニ關シ英國側申出ノ件

(左記ハ十二月十九日英國大使堀内次官ヲ來訪會談ノ際讀上ケタル書物ノ譯ニテ右ハ次官ニ於テ單ニ借受ケタルコトトナリ居ルモノナリ)

英國政府ハ若シ張學良カ自身ノ安全ヲ保障セラルナラハ或ハ蔣介石ノ釋放方ヲ納得スルヤモ知レサルコトニ思ヒ及ヒタリ。學良ニトリ恐ラクハ同人ノ安全力保障セラレ且ツ離國可能ナルヘキ天津又ハ上海ニ飛行機ニ依リ移サルルコト或ハ可能ナラン。

871 昭和11年12月24日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

#### 蔣介石解放のための共同保障措置に関する英

国提議に賛同する各國が個別に中國側に対し

て申入れを行つたとの情報について

付記 昭和十一年十二月二十四日付、東亞局第一課

作成

右英國提議に対するわが方回答振り案

#### (付記)

張學良救出ニ關スル英國大使申出ニ對スル回答振

(十一、十二、二十四)

張學良救出ニ關スル十九日英國大使申出ニ對シテハ堀内次官ヨリ口頭ヲ以テ左記趣旨ヲ簡單ニ回答セラルコト可然シト存ス

#### 左記

蔣介石氏ヲ救出シ同氏ノ手ニ依リ今次時局ヲ速ニ收拾セシ

メムコトハ帝國政府ノ最モ希望スル所ニシテ此ノ意味ニ於テ帝國政府ハ支那ノ内政ニ干與スルカ如キ印象ヲ與ヘサル

可能ノ範圍内ニ於テ蔣介石氏救出ノ爲凡ユル協力ヲナスニ

吝ナラサルモノナリ。尤モ我方ノ有スル情報ニ依レハ此ノ

際張學良ノ西安脱出カ果シテ可能ナルヤ否ヤ疑問ナルノミ

ナラス南京側ト張學良側トノ話合ハ御申出ノ如キ提案ヲナ

スニ適當ナル程進捗シ居ルモノトハ認メ難ク從ツテ帝國政

府トシテハ南京側ト學良側トノ話合ノ現状ニ於テ御申出ノ如キ提案ヲナスハ傳ヘラルカ如キ張學良ノ主張ヲ或程度

容認スルカ如キ兩者間ノ妥協ヲ促進セシムルノ結果トナラ

サルヤヲ惧ルモノナリ。

南 京 12月24日後発  
本 省 12月24日夜着

第一一二四號(大至急、極祕)  
往電第一一二二號ニ關シ  
川越大使ヨリ  
本二十四日午後佛國大使ハ「クローゼル」ヲシテ須磨ヲ來訪セシメ本日正午米國大使ノ發議ニ依リ同大使、英國「ハウ」(英國大使ハ本朝北平ニ向ヘリ)集合シ(伊太利大使ハ昨日既ニ單獨ニ申入ヲ爲シタルニ付之ヲ加ヘス)三者カ夫々本國政府ヨリ受ケタル訓令ヲ持合ヒ種々商議ノ結果支那側ニ對シ三國別々ニ支那政府ノ要請アルニ於テハ今次事件ノ結末トシテ學良カ開港場ニ達シタル場合ニ「ソーフ、コンドーイ」ヲ與フルノ用意アル旨ヲ申入ルルコトトナリ本日午後四時ヨリ佛、英、米ノ順序ニ別々ニ孔祥熙ヲ往訪同趣旨ノ申入ヲ爲シタルニ孔ハ簡單ニ感謝ニ堪ヘサル旨ヲ述ヘ居タル趣ヲ傳達セシメタリ尙「ハウ」ヨリ明日中ニ須磨ニ面會方申入アルモ右不取敢  
支へ轉電セリ

「サー・ナッチブル・ヒューゲッセン」ヨリ右ノ次第ヲ孔祥熙ニ申入レタル處孔祥熙ハ右提議ヲ歡迎セリ。尙「ヒュー・ゲッセン」ヨリ孔ニ對シ本案ニ付テハ關係國トモ協議ノ要アルヘキ旨説明ヲ加ヘ置キタリ。

仍テ本使ヨリハ日本政府ノ御意嚮ヲ同フ次第ナリ。本案ハ目下ノ南京ト學良間ノ折衝ニ聊カモ干渉トナルカ如キ提案ノ非サルコト申迄モナキ次第ナルカ日本政府カ此ノ提案ノ實行方ニ協力セラレ且日本大使ニ對シ其ノ同僚(外國大使)ト協調スル様訓令セラルヘキヤ否ヤヲ承知スルヲ得ハ本國政府ハ之ヲ多トスヘシ。

即チ帝國政府トシテハ蔣介石氏救出ヲ根幹トスル英國側提案ノ趣旨ニハ贊成ナルモ之カ實行ニ關シテハ暫ク事態ヲ靜觀シ時機ノ熟スルヲ待ツ必要アリトノ意向ナリ

編注 昭和十一年十二月二十四日、本案作成と入れ違いに有田外務大臣より在本邦英國大使に対して同様の趣旨が伝えられたため、本案は廃案となつた。

~~~~~

872 昭和11年12月26日 在上海河相總領事より 有田外務大臣宛(電報)

### 蔣介石洛陽到着の報に群衆歡喜について

第六一六號  
支發閣下宛電報第一〇六七號ニ關シ  
市政府ニ於テハ二十五日夕蔣介石洛陽安着ノ公報ヲ入手ス  
ルヤ支那側各機關及團體等ニ通報シ(當方ニモ王長春ヲシ  
テ通報セシメタリ)又市政府其ノ他ノ放送局ハ直ニ右報道  
ヲ放送シタルカ一方市政府自ラ大型自動車數十臺ニ爆竹ヲ

873 昭和11年12月28日 在南京領事より 有田外務大臣宛(電報)  
付記 昭和十一年一月十八日発有田外務大臣より在中國川越大使、在滿州國植田大使他宛電報合  
第三八号  
西安事件後の時局観測および今後わが方がとするべき立場につき意見具申  
西安事件の概要について  
南京 12月28日後発  
本省 12月28日夜着  
第一一四二號(極秘)  
川越大使ヨリ

大體事實ト認メラル)最早南京ト學良トノ間ニハ主義上ノ  
争點ハ解消セルモノニテ茲ニ双方ノ面子ヲ救フ妥協ノ途開  
ケタルモノト觀測セラル而シテ右ノ觀測ハ學良ハ洒々然ト  
シテ南京ニ歸リ國論モ亦之ヲ怪マントモセス討伐隊ノ如キ  
ハ何處ニ消失セルヤト言フ現狀ヨリ見テ先ツ左シタル誤ナ  
キモノト思惟セラル

大局果シテ右ノ如クトセハ今後ノ南京政府ノ對日動向ハ自  
ラ明ニシテ即チ即時對日宣戰觀ノ如キハ到底南京政府ノ採  
ラサルト共ニ從來同様同政府ハ歩一步抗日準備ヲ固メ行ク  
モノト判斷スルノ外ナカルヘシ  
斯ル現狀ノ下ニ於テハ最早蔣介石個人ノ出處進退即チ蔣力  
下野外遊スルヤ或ハ軍政双方ノ最高職兼攝ノ地位ヨリ一步  
退キ一方ノミヲ引續キ保有スルヤハ大局上左迄問題視スル  
ニ當ラサルヤニ認メラル次第ニシテ此ノ際同人ニ對シ日  
支關係ヲ破局ニ導カサランカ爲ハ措キ先ツ兩國々交ヲ  
調整スルノ「ステイツマンシップ」ヲ期待スルカ如キハ前  
記ノ大勢ヲ認識セサルノ誹ヲ免レサルヘシ況ヤ假ニ蔣力下  
野外遊ニ決スル場合アリトスルモ蔣ヲシテ本邦ニ渡來セシ  
メントスルカ如キハ却テ我方ノ面目ヲ潰スノ結果トナラサ

今次西安事件ノ支那内政及南京政府ノ對日動向等ニ對シ及  
ホスヘキ影響ニ付テハ輕々ニ豫斷ヲ許ササルヘク就中蔣介  
石救出ニ當リ南京學良間ニ行ハレタル妥協條件蔣介石ノ進  
退等ニ付テハ折角探查中ナル處事件夫レ自體カ飽迄支那  
流ノ軍閥家間ノ抗爭ナル限り之カ解決ニ當リテモ金錢、地  
盤問題等カ決定的要素タリシコトハ略々疑ナキ所ナルヘシ  
ト雖他面學良ノ正式要求條項ノ中如何ナル主義主張カ容レ  
ラレタルカニ付考慮ヲ繞ラスニ結局抗日ノ點ニ於テ合意成  
立セルモノト見テ先ツ大誤ナカルヘキカト思考セラル  
蓋シ客年汪兆銘ノ凶變ニ伴ヒ成立セル蔣介石政府ハ抗日準  
備ノ爲先ツ國內ヲ統一スルノ方針ニ終始シ來レルモノナル  
處先般ノ綏東事件ハ蔣介石政府ノ對民衆宣傳ニ好餉ヲ與ヘ  
タルハ勿論累次ノ戰勝ノ報道ハ南京政府自體並ニ民衆ヲシ  
テ誤リタル抗日分子ノ意識ヲ固メシムルニ至リ

茲兩三年間始ント影ヲ潛メタル失地回復ノ夢想ヲスラ再ヒ  
喚起スルニ至レル次第ハ既ニ御承知ノ通ナリ從テ今次學良  
カ少クトモ表面上主張スル大義名分ニシテ抗日ニ集中セラ  
レタル上ハ(學良カ形勢非ナルヲ見テ看板ヲ抗日一點張ニ  
塗替ヘタルコトハ支發閣下宛電報第一〇六六號等ヨリ見テ

満載シテ盛ニ爆竹ヲ打揚ケツツ市内ヲ練歩キ熱狂セル群衆  
亦之ニ和シテ一大行列トナリ市内ハ深夜迄歡喜ノ聲及爆竹  
ノ音ニ満々タルカ今二十六日ハ市黨部ノ命令ニ依リ市内各  
機關及一般支那人ハ一律ニ國旗ヲ掲揚シテ慶祝ノ意ヲ表シ  
又今朝各公債ハ急ニ約一元方昂騰セリ

支へ轉報シ北平、在支各總領事へ轉電セリ  
~~~~~

ルヲ得ス單ナル漫遊ノ程度ニ於テモ同人カ此ノ際本邦立寄ヲ廻避シ度キハ最近國民政府要人連外遊ノ事例ニ徵スルモノナク暫ク南京政府ノ動向ヲ見届ケテ徐ニ對策ヲ講スルノ態度ニ出ルコト然ルヘシト存セラル

了解ニ難カラサルヘン

就テハ我方トシテハ蔣個人ニ對シ右ノ如キ希望ヲ繫クコトナク暫ク南京政府ノ動向ヲ見届ケテ徐ニ對策ヲ講スルノ態度ニ出ルコト然ルヘシト存セラル

以上當方ノ觀測不取敢御参考迄

(本電配布先國交調整交渉電報同様トセラレ度シ)

#### (付記)

本省 昭和12年1月18日後7時発

合第三八號

支那情報(第一報)

一、張學良ハ十二月十二日西安事件ノ決行ト同時ニ楊虎城、于學忠等トノ連名ヲ以テ南京政府ニ對シ八箇條ノ要求ナルモノヲ提出セル趣ニテ其ノ内容ハ(1)抗日ノ即時實行(2)聯蘇容共(3)中央政府ノ改組(4)共產軍討伐ノ中止(5)政治犯人(共產黨員)ノ釋放(6)愛國運動ノ自由恢復(7)言論結社集合ノ自由(8)孫總理ノ政策實行等ナリト傳ヘラル處諸情

報ヲ綜合スルニ(1)東北軍ハ陝西方面ノ僻地ニ於テ共匪討伐ニ從事シ居タルモ中央ヨリノ軍費途絶工勝ナルノミナラス最近成績舉ラサルヲ理由ニ更ニ福建ニ移駐セラレン(2)共產軍トノ間ニ或程度ノ諒解成立セルモノノ如ク後顧ノ憂ナクナレルコト(3)全國ニ漲ル抗日ノ風潮ヲ利用シ蔣介石ヲ抑留シテ一芝居打タントセルコト等カ事件ノ原因ト認メラル。

二、今次事件ニ對シ國民政府ハ表面頗ル强硬ナル態度ヲ持シ

張學良討逆明令ヲ發出スルト共ニ何應欽ヲ討逆總司令

(孔祥熙行政院長代理トナル)ニ任命シ中央軍ヲ潼關方面

ニ繰出シテ西安包圍ノ姿勢ヲ執ラシメタルカ他方宋子文、宋美齡等ニ於テ西安ニ飛行シ直接學良ト話合ヲ進メタル結果蔣張間ニ或程度ノ妥協成立セルヤニテ蔣介石ハ二十六日無事南京ニ歸還セリ。(國民政府ハ蔣カ學良及楊虎城ニ與ヘタル訓詁ナルモノヲ發表セルカ其ノ内ニ於テ蔣ハ「余ハ先ツ余自身中央ニ向テ罪ヲ請ヒ汝等ニ付テハ早キニ及シテ過ヲ改メ事變ヲ擴大セシメサリン點ヲ充分説明スヘク中央モ必ス寬大ノ沙汰ニ出ツヘシ」ト述ヘ居レリ)二十九日ノ中央政治委員會ハ蔣介石ノ行政院長及軍

事委員會委員長復職方決議セルカ、蔣ノ再度ノ辭職願モ結局慰留セラレ同人ハ差當リ一ヶ月ノ休暇ヲ得テ一月一日奉化ニ歸省セル處一方三十一日ノ軍法會議ハ學良(學良ハ二十六日宋子文ト共ニ南京ニ入レルカ其ノ後共產軍西安ニ入城セル趣ニテ于學忠、楊虎城等學良ノ部下ハ瀕<sup>急</sup>リニ反中央ノ氣勢ヲ擧ケ居レリ)ヲ徒刑十年、公權褫奪五年間ニ處シタルモ國民政府ハ蔣介石ノ特赦請願ヲ容レ

一月四日「學良ノ有期徒刑ヲ特赦ス但シ依然軍事委員會ニ交付シ嚴ニ管束ヲ加フル」旨明令セリ。

三、南京政府ニ於テハ宋子文等ノ工作ハ個人的資格ニ於テナ

サレタルモノニシテ中央ノ關知セサル所ナリトノ建前ヲ執リ現ニ二十八日張群ハ川越大使ニ對シ「學良ハ全ク悔悟シテ蔣ヲ歸京セシメタルモノニシテ學良ノ所謂政治的

要求ノ如キハ政府ニ於テハ最初ヨリ之ヲ取合ハ斯<sup>既</sup>假ニ蔣監禁中ニ何等カ詰合アリタリトスルモ斯ル正式ノ手續ヲ踐マサルモノハ政府ノ政策ニ取入ル能ハス從テ國民政

府ノ對外方針、對內政策、政府ノ陣容ニハ何等變更ナキ

旨語リ居ルモ宋子文等ニ於テ斡旋セル蔣張妥協條件中ニ

(1)抗日政策ノ強化(2)政府ノ改組(3)共產軍トノ停戰等ア

874

昭和11年12月28日

在上海河相總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件の原因は張學良軍の待遇給与の問題であり政治性はないとの情報について

上 海 12月28日後発

本省 12月29日前着

第六一九號

往電第六一八號ニ關シ

中日實業江藤カ孔祥熙祕書齋輔三、中央銀行副經理陳行及行政院關係有力者ヨリノ聞込トシテ内報スル所ニ依レハ今

回ノ事件ノ真相ハ豫テヨリ待遇給與ニ不平ヲ抱キ居リタル

學良軍力軍費強要ノ手段トシテ蔣介石ヲ監禁セルモノニシ

テ政策問題ニアラス學良軍側ハ最初蔣介石釋放ノ代價トシ

テ六千萬元ヲ吹掛けタルカ「ドナルド」宋子文等種々折衝

ノ結果三千萬元ニテ折合付キタルヲ以テ宋子文宋美齡先ツ

手附金トシテ現金一千萬元(孔祥熙ノ内命ニ依リ當地中央

銀行ヨリ「ゴールドバー」ニテ一千萬元ヲ飛行機五臺ニテ

西安ニ運ヘル由)ヲ學良軍ニ手交シ今回蔣ノ歸還ヲ見タル

次第ナルカ學良ニハ別ニ英國大使ノ保證ニテ外遊後一千萬

元ヲ與フルコトトナリ居ル趣ニテ支那側カ最初ヨリ蔣ノ救

出可能ヲ信シテ樂觀的態度ヲ取り居タルハ全ク本事件ノ性

質カ單純ナル「キソドナツブ」ニ過キサリシ爲ナル由ナリ

但シ國民政府ハ國民ニ對スル手前前記ノ如キ折衝ハ總テ宋

カ個人ノ資格ニ於テ爲シタルモノナリトノ建前ヲ取り居ル

次第ナリトノコトナリ御参考迄

因ニ上海着後ノ學良身柄ノ安全保障ハ吐月笙及吳鐵城ニテ

引受クルコトトナレル趣(本電出所絕對極祕ニ請フ)

北平、在支各總領事ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

875 昭和12年1月2日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)  
張學良に対する蔣介石の妥協条件につき米国  
記者内話について

上 海 1月2日後発  
本 省 1月2日夜着

第一號(極祕)

西安事件ノ妥協条件ニ關シ「アーベンド」カ信スヘキ筋ヨ

リ得タル情報トシテ同盟松本ニ内話セル所ニ依レハ同條件

ハ

(一)共產軍トノ停戰

(二)共產軍ヘノ補助金交付

(三)南京政府ノ改組(人民戰線派ノ者ヲ入ルルコト)

(四)南京政府ノ「ソビエット」人顧問ノ招聘

等ヲ含ミ居ル趣ノ處(「ア」ハ右情報ヲ「バイヤス」ニ電報

シ東京ヨリ紐育「タイムス」ニ打電セシメタル由)

右ニ關シ「チャンセラー」カ「ドナルド」ヨリ聞込ミタル

所モ前記(二)ノ條件ヲ除キ章乃器一派ノ釋放ヲ條件トシ居ル

以外大體同様ニテ「ド」ハ章乃器一派ノ釋放如何ニ依リ南

京側カ果シテ斯ル妥協條件ヲ容レタリヤ否ヤ知リ得ヘシト

見居レル趣ナリ  
右聞込ノ儘

876 昭和12年1月2日 在中國加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件解決は張學良に対する蔣介石の屈服

であるとの見方を王芳亭内話について

北 平 1月2日後発  
本 省 1月3日前着

第一號

(一)王芳亭カ極祕トシテ館員ニ内話セル所左ノ通り何等御

参考迄

一、西安事變ノ解決ハ表面傳ヘラルカ如キモノニハアラス  
シテ事實ハ全ク蔣介石ノ學良ニ對スル屈服ナリ蓋シ蔣ハ

西安ニ於テ學良ノ政治的 requirement 條件八箇條ヲ悉ク容認セル

ノミナラス軍餉及外匯各四千萬元計八千萬元ヲ學良ニ支

給スルコトヲ約シ英米ノ斡旋保障ニ依リ釋放セラレタル  
モノニシテ學良ノ南京同行ハ右條件ノ履行督促ノ爲ニシ

シテ事實ハ全ク蔣介石ノ學良ニ對スル屈服ナリ蓋シ蔣ハ

西安ニ於テ學良ノ政治的 requirement 條件八箇條ヲ悉ク容認セル

ノミナラス軍餉及外匯各四千萬元計八千萬元ヲ學良ニ支

給スルコトヲ約シ英米ノ斡旋保障ニ依リ釋放セラレタル  
モノニシテ學良ノ南京同行ハ右條件ノ履行督促ノ爲ニシ

急遽南京ヨリ西北ニ飛ヘルハ之カ爲ナリ云々

支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

877 昭和12年1月4日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件と中國共產軍との關係に関する米国  
記者情報について

南 京 1月4日後発  
本 省 1月4日後着

第三號

西安事件ト共產軍トノ關係ニ關シ四日紐育「タイムス」「スチール」ノ須磨ニ對スル内話左ノ通

一、張學良所有飛行機米人操縱士ノ談ニ依レハ同人ハ張ノ命ニ依リ十二月十八日「ソヴィエト」區域ヨリ共產軍領袖

六名ヲ西安ニ運ヒ其ノ内ニアリタル周恩来ハ三回蔣介石ト面會セル趣ナリ

二、學良事變ト同時ニ西安ニ於テ中央所屬飛行機三十臺ヲ押收セル處西安「テキサコ」社員「ヂヨーデ、ファイツチ」

三、學良事變ト同時ニ西安ニ於テ中央所屬飛行機三十臺ヲ押收セル處西安「テキサコ」社員「ヂヨーデ、ファイツチ」

ノ談ニ依レハ右ヲ飛行不能ナラシムル爲「ソ」區域ヨリ  
蘇聯人技師ヲ飛行機ニテ呼寄セタル由  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
支、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ  
~~~~~

878 昭和12年1月4日 在ニューヨーク井上總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

中國駐在外交團は中國共產黨に対する蔣介石  
の妥協を確信との報道について

ニューヨーク 1月4日後発  
本 省 1月5日前着

第一號

一日上海發「タイムス」特電ニ依レハ同地外交團ハ蔣介石釋放ニ當リテ蔣カ共產黨領袖ニ對シ或種ノ讓歩ヲ約シタルコトヲ確信シ居ル趣ニテ一部外交官ノ意見ニ依レハ右條件ハ日本ヲ戰爭ニ誘込ムコトヲ目的トシ啻ニ共產軍討伐ヲ中止スルノミナラス又共產黨公認ニ代ル妥協案トシテ中央政府ヲ改組シ「プロソヴィエト」政治家ヲ漸次要職ニ就クルコトヲ含ムモノニシテ右改組ハ二月中央執行委員會全體會

議ノ開催ヲ俟チテ開始セラルヘシトノコトナリ又一外交官カ支那政府要人ヨリ得タル情報ニ依レハ共產軍ハ事實上南京政府ノ「コントロール」下ニアリ將來同政府ノ完全ナル統制ヲ認ムル協定カ成立スル迄其ノ維持ニ付補助金ノ支給ヲ受ケ居ル由ナリ  
米ニ轉送セリ

879 昭和12年1月7日 在天津堀内總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西安にて蔣介石は宋子文の説得によりソ連との連携を容認した模様であるが帰還後の立場  
は流動的との情報について

天 津 1月7日後発  
本 省 1月7日後着

六日他用ニテ來訪ノ李景蘇(汪精衛ノ親友ニシテ汪ノ日本

第一號  
側トノ聯絡係ナリシカ昨今李思浩ノ日本側トノ聯絡係ヲ勤メ居レリ)ハ本官ニ對シ蔣介石ハ西安ニ於テ學良ノ要求ヲ斷然拒絕シ宋子文ニ於テ英、米ヲ「バツク」トスル聯俄ヲ

880 昭和12年1月7日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

支、上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ、廣東ヨリ福州へ轉報アリタシ  
~~~~~

張學良の八項目要求を蔣介石容認との報道に

ついて

上海 1月7日後発

本省 1月7日夜着

881 昭和12年1月7日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件当時の英國側動静および張學良の言

動に関する宋子文内話情報について

南京 1月7日後発

本省 1月7日夜着

第一四號

最近當地ニテ入手セル西安發行解放日報ニ依レハ蔣介石ハ十二日學良ヨリ提出セル八項目ヲ二十五日離陝迄ニ全部容認シ尙同日出發直前楊虎城ニ對シ

(一)入關ノ中央部隊ニ明令シ二十五日ヨリ潼關外ニ撤退セシ

メ又同日以後若シ内戰發生スルコトアラハ余(蔣)個人ニテ責ヲ負フヘシ

(二)内戰ヲ停止シ國力ヲ集中シ一致外ニ對ス

(三)政府ヲ改組シ各方(面ノ)人材ヲ集中シ抗日主張ヲ容認ス

(四)外交政策ヲ改變シ中國ノ民族解放ニ同情アル一切ノ國家

トノ聯合ヲ實行ス

(五)上海ニテ逮捕サレタル領袖ノ釋放ハ直ニ行フ

(六)西北各省軍政ハ張、楊兩將ニ於テ其ノ全責ヲ負フコト

スヘン

トノ具體的意見ヲ表示シタル旨報道シ居レリ

本七日吳震脩カ主トシテ宋子文ヨリ聞キタル所トシテ須磨ニ内話シタル所左ノ通

一、西安事件發生スルヤ英國側ハ狼狽シ先ツ宋子文等ト協議ヲ重ネタル上英國大使ヨリ「ドナルド」ニ西安行ヲ勧メ

蔣介石ノ生死ヲ確メシムルコトトシ「ド」カ西安ヨリ洛陽ニ歸リ蔣カ生存セルコト明カトナルヤ英國大使ハ孔祥熙ニ學良ノ安全ヲ列國側ニテ保障スヘキ旨申入レタル次第ナリ

二、宋子文ノ觀測ニ依レハ學良ハ梅毒症ノ爲カ脳ニ異狀ヲ來セルニアラスヤト思ハルル程言動支離滅裂ニシテ先ツ蔣

介石ノ日誌ヲ見テ十九、二十日ノ兩日泣キ喚キ宋子文、宋美齡ノ兩人ヨリ二十二日ニ至リ滯英中ナル學良ノ妻子及學良ノ財產ハ宋子文ノ手ニテ安全ニ計フヘキ旨ヲ說キ

タルニ翻然トシテ政治的主張等忘レタカノ如ク自己ノ一身ノ保全ノミヲ顧念シ蔣介石ヨリ其ノ保障ヲ得ルヤ事實無條件ニ蔣介石等ノ釋放ヲ快諾シタル處學良ノ部下及楊虎城等ハ學良ノ遭口ニ不安ヲ覺エ二十四日朝ノ如キハ蔣

介石ハ勿論學良モ共ニ血祭ニ上ケントスル程ノ勢ナリシ爲宋子文等ハ二十四日夜一睡モセサリシ程ナリ

三、二十五日蔣介石等ヲ見送ノ爲ナリトテ來レル學良ハ離陸ノ際突如操縱士ノ傍ニ坐リ機中ヨリ楊虎城ニ自分ノ南京行ヲ告ケ且麾下軍隊ノ處分ヲ依頼セル實狀ナレハ蔣介石

モ學良ノ言動力餘リニ子供ラシキ爲却テ同情シ歸寧後中政會議等ニ對シ穩便措置方ヲ特ニ申入レタル譯ナリ

四、蔣介石ハ結局軍事ノミヲ采配シ汪精衛ヲ迎ヘテ黨部ヲ統轄セシメ行政ニハ宋子文又ハ孔祥熙ノ話ハアルモ蔣介石ハ汪トモ相談ノ上王寵惠ヲ行政院長タラシメ張群ヲ飽迄ト觀測セラレ居レリ

上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ  
廈門ヨリ福州へ轉報アリタシ

882 昭和12年1月8日 在中國加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件を機にわが方の対中政策転換を在中  
國英國大使要望について

北平 1月8日後発  
本省 1月8日夜着

第一號(極祕)

<sup>(1)</sup>本八日本官英國大使「ヒューゲッセン」ヲ挨拶ノ爲往訪ノ際同大使ノ爲セル内話要領左ノ通

一、日本カ支那ニ對シ重壓ヲ加ヘ攻略ヲ行フ間ハ支那ノ抗日

ハ終熄セサルヘク日本側ニテハ頻リニ支那ノ排日ヲ云々

スルモ自分ノ考ヲ率直ニ言ヘハ支那ノ抗日ハ日本自身作

リ居ルモノニテ此ノ點日本政治家ノ猛省ヲ促シ度ク殊ニ

北支ニ於ケル日本軍ノ行動、綏遠問題等ハ支那ノ抗日ニ

拍車ヲ掛ケタルモノト思考セラル處此ノ際日本カ穩健公正ナル政策ヲ以テ支那ニ臨マハ其ノ抗日、排日ハ容易

ニ消滅スヘク而カモ對支政策轉換ハ今カ最適期ナリト思考ス

二、巷間英國ト蒋介石乃至南京政府トノ關係ニ付云爲スルモノアル處英國ハ唯スラ支那ノ安定、繁榮ニ依リ世界各國

カ利益ヲ受クルコトヲ希望スルノミニシテ別ニ蒋介石ヲ守立ツル意思モナク英國カ之ニ依リ何等利己的野心ヲ満サントスル意思ナキコトハ斷言シ得ル所ナリ蓋シ支那ノ

統一繁榮ニ依リ最利益ヲ受クルモノハ日本ナリ

三、學良乃至其ノ部隊カ露國ト通シ居レリト云フコトハ信セラレス陝西方面ニ共匪及赤化分子ノ存在スルコトハ事實ナルモ支那ノ所謂共匪ナルモノハ第三「インターナショナル」指導下ノ露國共產黨員トハ其ノ趣ヲ異ニシ困窮セ

ル多數ノ所謂流民ニ過キス之ヲ以テ露國ト通シ居レリト断定スルハ早計ナルヘシ支那カ聯俄容共政策ヲ採ルカ如

キハ想像シ得サル所ナルモ日本カ餘リニ支那ニ重壓ヲ加ヘ虐メルカ如キコトアラハ支那モ已ムヲ得ス露國其ノ他ト手ヲ握ルコトアルヘシ支那カ聯俄容共政策ヲ採ルト否トハ一二日本ノ態度如何ニ懸ルモノト思考ス

四、<sup>(2)</sup>蒋介石南京歸還ニ當リ蔣カ學良ノ抗日ニ關スル要求ヲ容

支、上海大使、在支各總領事へ轉電セリ

883 昭和12年1月8日 在上海河相總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

蒋介石帰還における楊虎城軍および旧東北

軍勢力の反中央的態度について

上 海 1月8日夜發  
本 省 1月8日夜着

第六號 支發閣下宛電報第一號ニ關シ

市政府陶孝潔(出所祕)ハ七日館員ニ對シ今回蒋介石ノ歸還スルヲ得タルハ學良カ宋子文ノ說得ニ服シ楊虎城初メ舊東

北軍ノ過激分子ヲ出シ拔キ蒋介石ヲ逃シ自分モ西安ヨリ逃出シタルモノニシテ楊虎城等ト蒋介石乃至中央トノ間ニ完

全ナル妥協成立セルモノニアラス(此ノ點客年往電第六二

二號吳市長ノ本官ニ對スル談話中ニ學良ハ早ク悔悟セルモ

楊ハ未タ悔悟シ居ラスト洩ラシ居タルト符合ス)故ニ楊虎城、于學忠、王以哲等ハ蔣歸還後モ中央ノ命ニ服セス客年未再度兵變ヲ起シテ學良直系ノ百五師劉多荃等ノ軍隊ヲ完

レタリトハ思ハレス又蔣乃至南京政府ニ於テモ此ノ際對日態度ヲ改メ抗日ヲ強化スルカ如キコトハ想像セラレス尙學良ノ生命保障方ニ付テハ日本側ハ參加セサリシモ英國ハ佛、米、伊ト共ニ南京政府ニ提議シタルニ南京側ヨリ何等斡旋要求ナカリシ爲其ノ儘トナレリ

五、英國民ハ日英同盟ハ解消シタルモ其ノ精神ヲ忘レス相互協調以テ極東ノ平和ノ爲盡シ度キ考ナルカ支那ニ於ケル日本ノ行動殊ニ北支及綏遠問題ニ付英國側ニテ了解シ得

サル點モアリテ爲ニ多少英國側ノ感情ヲ刺戟シ居ルモ何レ早晚支那問題ニ關シ日英關係ハ明朗化スルコトト思ハ

ル元來支那ハ廣大ナル國家ナレハ當分支那ニ於テ日英ノ利益カ衝突スルカ如キコトナカルヘシ

六、本官ノ質問ニ對シ西藏及新疆ニ於ケル英露ノ勢力範圍相互確認(貴電合第六號)ニ關シ兩國間ニ話合行ハレ居ルカ

如キコトハ自分ニ於テ何等承知セス右ハ單ナル臆測邪推ニ過キサルヘシトテ全然否定セリ尙同大使ハ來週木曜(十三日)南京ニ赴キ英國皇帝戴冠式當日ハ同地ニ居ル必

要モアリ結局五月中旬頃迄滯在スルコトトナルヘキ旨語リ居タリ

安ヨリ驅逐シ且中央系人物ヲ全部陝西ヨリ追出シ反中央的態度ヲ明カニシタルモノニシテ陝西ト中央トノ聯絡通信ハ

目下全然絶エ居レリ中央ニ於テハ顧祝同ヲシテ之カ壓迫鎮撫ニ當ラシメ居リ一方學良ハ六日西安善後問題ニ關シ蔣ト打合ノ爲極祕裡ニ奉化ニ飛ヘリ中央カ積極的ニ楊虎城等ヲ討伐シ得ス楊及于學忠ヲ免職シ乍ラ其ノ問責問題ヲ未決ノ儘トシ置キ又楊ノ部下孫蔚如ヲ陝西主席ニ任命スル等之力

懷柔鎮撫工作ニ努メ居ルハ楊可聞錫山、韓復榘、宋哲元及廣西派ト默契アルヲ惧レ居ル爲ニシテ蒋介石ハ日下頗ル之

カ對策ニ苦慮シ居リ蔣ハ一箇月ノ休暇ヲ取り奉化ニ引籠リ居ルモノナルカ西安善後問題カ曰眞付ク迄ハ出馬セサルヘシ云々ト内話セル趣ナリ何等御参考迄

支、北平、在支各總領事へ轉電シ、上海大使へ轉報セリ

884 昭和12年1月9日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

蒋介石の張學良要求容認報道を張群が明確に否定したとの情報について

上 海 1月9日後発  
本 省 1月9日夜着  
第三三號  
往電第一一號ニ關シ  
當地邦字紙ハ八日何レモ大見出ヲ附シテ右記事ヲ掲クルト  
共ニ右蔣、張間ノ妥協條件ニ付テハ陸、海、外三省當局モ  
リトノ七日東京發同盟電ヲ掲載セル爲支那側一般ニ對シ少  
カラサル「シヨツク」ヲ與ヘタルカ周玆ハ八日館員ニ對シ  
右解放日報ノ記事ハ中央ニ於テモ數日前既ニ入手シタルカ  
同日報ハ楊虎城ノ機關紙ニシテ全ク彼等一流ノ宣傳ニ過キ  
スト見居タル處更ニ爲念在滬中ノ張群ニ確メタルニ斯ル事  
實ハ斷ンテナシト明言セリト語リ又且下來滬中ノ于右任モ  
日本ノ新聞カスル宣傳記事ヲ轉載スルハ已ムヲ得サルヘキ  
モ政府當局カ其ノ眞相ヲ突止ムルコトナク之ヲ云々スルカ  
如キ印象ヲ與フルコトハ面白カラストノ口吻ヲ洩ラシ尚西  
北剿匪司令部撤廢ニ關シ日本側ニテハ之ヲ以て容共ノ第一  
歩ナリトノ解釋行ハルル處右ハ顧祝同ニ西北善後措置ヲ爲  
サシムル爲顧ヲ掣肘スル地位ニアル司令部ヲ廢シタル迄ナ

リ又赤化防止ノ方針ニハ變更ナキモ目下ノ情勢ニ於テ直ニ  
赤軍討伐ヲ爲サハ東北軍ヲ動搖セシメ事態ノ收拾困難トナ  
ルニ付實力ノ發動ヲ爲シ得サル内情ナル旨語レル趣ナリ  
支、北平、在支各總領事へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~  
當地邦字紙ハ八日何レモ大見出ヲ附シテ右記事ヲ掲クルト  
共ニ右蔣、張間ノ妥協條件ニ付テハ陸、海、外三省當局モ  
リトノ七日東京發同盟電ヲ掲載セル爲支那側一般ニ對シ少  
カラサル「シヨツク」ヲ與ヘタルカ周玆ハ八日館員ニ對シ  
右解放日報ノ記事ハ中央ニ於テモ數日前既ニ入手シタルカ  
同日報ハ楊虎城ノ機關紙ニシテ全ク彼等一流ノ宣傳ニ過キ  
スト見居タル處更ニ爲念在滬中ノ張群ニ確メタルニ斯ル事  
實ハ断ンテナシト明言セリト語リ又且下來滬中ノ于右任モ  
日本ノ新聞カスル宣傳記事ヲ轉載スルハ已ムヲ得サルヘキ  
モ政府當局カ其ノ眞相ヲ突止ムルコトナク之ヲ云々スルカ  
如キ印象ヲ與フルコトハ面白カラストノ口吻ヲ洩ラシ尚西  
北剿匪司令部撤廢ニ關シ日本側ニテハ之ヲ以て容共ノ第一  
歩ナリトノ解釋行ハルル處右ハ顧祝同ニ西北善後措置ヲ爲  
サシムル爲顧ヲ掣肘スル地位ニアル司令部ヲ廢シタル迄ナ

885 昭和12年1月9日 在中國川越大使より  
蔣介石帰還後の西安情勢を孔祥熙憂慮について  
上 海 1月9日後発  
本 省 1月9日夜着

第一四號  
當地支那人筋ニ於テハ蔣介石ノ西安脱出ニ當リ張學良トノ  
間ニ政府ノ改造又ハ政策ノ變更等ニ關スル妥協アリタリト  
信スル者殆トナキ模様ナルモ楊虎城及張學良部下ノ中ニハ  
尙不穩分子アリ急速ニ西安方面ノ事態ヲ收拾スルコトハ困  
難ナルヘシト觀測スル者多ク甚タシキニ至リテハ若シ此ノ  
儘ニ推移スレハ共匪及楊、張兩軍ハ合體シテ陝西、甘肅方  
面ニ一勢力ヲ築キ往年ノ江西ノ如キ狀態トナルニアラスヤ  
ト憂慮スル者モアル處當地滯在中ノ孔祥熙ハ八日清水カ此

ノ點ヲ指摘シテ質問シタルニ對シ自分(孔)モ同様ニ心配シ  
居ル次第ナルカ政府トシテハ廣西、湖南、四川其ノ他(河  
北、山西、山東等)ノ方面ノ情勢ヲモ顧慮スル必要アリ極  
端ニ言ヘハ目下國內ハ危機四伏ノ状態ニ立チ居ル譯ナリ要  
スルニ各地軍隊ノ少壯幹部ノ間ニハ相當強キ抗日思想アリ  
之ヲ謂レナク壓迫スルコト困難ナルニ附込ミ地方軍閥カ之  
ヲ利用シテ政府攻撃ニ用ヒントスル有様ナルヲ以テ中央モ  
下手ニ手ヲ下スコト出來サル次第ナリト答ヘタルカ其ノ際  
孔ハ解放日報ニ掲ケタル蔣、張妥協云々ノ記事ニ付テハ一  
笑ニ附シ居タル趣ナリ  
支、北平、在支各總領事へ轉電シ上海へ轉報セリ  
廣東ヨリ香港ヘ、廈門ヨリ福州へ轉報アリタシ  
~~~~~

北 平 1月10日前発  
本 省 1月11日夜着

第一八號  
西安事變ニ關シ吳鼎昌ノ談話ナリトテ王克敏ノ西田顧問ニ  
對スル内話(一月七日)要領左ノ通り  
一、二十六日蔣介石南京ニ於テ各部院長等ヲ引見ノ際發表セ  
ル西安事件概要

蔣ハ東北軍ニ不穩ノ形勢アルヲ看取シ一月四日洛陽ヨ  
リ西安ニ赴キ之カ處置ヲ考慮中八、九日頃ニ至リ形勢愈  
惡化蔣暗殺ノ氣配サヘ見ヘタルニ付蔣ハ之ヲ避ケル爲華  
清池ニ赴ケリ之ヨリ前蔣ハ東北軍ノ不穩情勢緩和ノ爲張  
學良ニ對シ未拂軍費ノ交付外一件ニ關シ覺書ヲ以テ約ス  
ル所アリシモ張ハ之ヲ部下ニ傳ヘ居ラサルヲ知リ十一日  
午後四時蔣ハ東北軍將領ヲ招キ直接傳ヘントシタルニ張  
ハ稍時刻ニ先立チテ來リ種々不平ヲ洩ラシタルカ各將領  
モ來着シ宴席ニ於テ軍費支給等ヲ披露シ六時半頃散會蔣  
ハ衛士五十六名ニ守ラレ宿ニ戻リタル處翌十二日午前四  
時半頃東北軍ハ突如之ヲ包圍シテ機關銃ヲ以テ亂射蔣ハ  
衛士七名ヲ伴ヒ壁ヲ越エテ草中ヲ匍匐裏山ノ墓地内ニ漸

886 昭和12年1月10日 在中國加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)  
蔣介石發表の西安事件概要および蔣帰還後の  
西安軍事情勢につき王克敏内話について

~~~~~  
西安軍事情勢につき王克敏内話について

1173

ク難ヲ避ケタル處九時半頃土民ニ發見セラレ張學良軍ノ  
一營長白某ノ爲西安綏靖公署ニ護送セラレタリ

次テ十一時半頃學良ハ極メテ險惡ナル面持ニテ蔣ヲ訪レ

「愚ナル行動ヲ止メヨ、貴下ハ余ト行動ヲ共ニセラレ度

シ、若シ余ノ行動ニシテ宜シカラストスルナラハ出直シ

(生レ代ルノ意)來ルヘシ」ト言ヘルヲ以テ蔣ハ「汝ニシ

テ余カ汝ノ長官ナルコトヲ認ムルニ於テハ速ニ我命ニ從

ヒ余ヲ南京ニ返送セヨ然ラスンハ汝ノ意ノ儘ニ余ヲ處置

セヨ」ト極メ付ケタルニ張ハ八項ノ條件ヲ示シ署名ヲ求

メタルモ蔣ハ之ヲ拒絶セリ其ノ後學良並ニ白營長等交々

來リテ住所ノ移轉及要求承認ヲ求メタルモ果サス十四日

午後「ドナルド」來リテ其ノ家ニ轉所ヲ勧メタルヲ以テ

始メテ之ニ同意シ「ド」ノ家ニ赴キタルニ意外ニモ張學

良ノ私邸ニ案内セラレタルカ其ノ後宋子文來リテ二十五

日飛行機ニ依リ洛陽ニ歸來セリ

蔣ハ右發表後今後ノ對策ニ關シ左記三項ヲ表示セリ

(イ)今回ノ事件ハ事態頗ル重大ナルヲ以テ主トシテ中央政

府ニ於テ解決方法ヲ講シ三中全會ニ於テ決定スヘシ

(ロ)自己ノ過誤ヲ認メ中央ノ處分ヲ要求スルト共ニ身體著

### タルハ彼此分離對立セシムル爲ナリ

(一)中央軍中甘肅、寧夏省境ニアル胡宗南部及甘肅、陝  
西方面ニアル毛炳文部等三、四萬ハ何レモ孤立ノ狀  
態ニアル處之カ救出乃至東北軍解決策ニ利用方ニ付  
テハ決定シ居ラサルモ蘭州ニアル胡部ノ一團ハ武裝  
解除セラレ參謀長及副官長ハ抑留セラレ居ル爲中央  
軍ニ於テ衝突ヲ避ケ居ルモ結局一戰ハ免レサルヘク  
而シテ東北軍ハ餘程減衰シ居ルニ付假令共產軍ト提  
携スルモ其ノ解體ハ免レサルヘシ云々

支、上海大使、在支各總領事、滿ハ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

887 昭和12年1月11日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

國民政府の改組問題など西安事件後の中央政

情に鑑みわが方は大局的觀点から対策を講じ

るべき旨意見具申

本省 1月11日夜着 上海 1月11日後発

シク疲勞シ居ルヲ以テ辭職シ度ク最少限度六箇月ノ休  
暇ヲ欲ス

(イ)學良ハ重大犯人ナルモ悔悟速ニシテ余ヲ南京ニ送還シ  
タルニ付寛大ナル處分ヲ要請ス

(二)右ニ對シ馮玉祥ハ學良處罰方ヲ主張シ不満ノ意ヲ表シ  
タルモ其ノ儘散當會セリ

(三)事件後ノ軍事情勢

イ、事件發生後學良ハ楊虎城ノ部下馮欽哉ニ潼關ノ占領  
ヲ命シ一方洛陽ニアル東北軍ノ一團ニ對シ洛陽ノ兵工

廠ノ占領及行營ノ封鎖ヲ電命セルカ洛陽前敵總指揮樊

崧甫ニ探知セラレ機先ヲ制セラレ實行ニ至ラス現在樊

部隊ハ臨潼附近迄進出シ來リ馮部ハ其ノ西ニ接シ東北

軍ト中央トノ間ニ一種ノ緩衝地帶ヲ形成シ大ナル戰鬪

ナキモ十二月二十九日中央軍ハ密ニ動員シテ兵ヲ潼關

附近ニ集中シ本月五日前哨ノ衝突アリタリト言ハル

ロ、今後ニ於ケル中央ノ軍事解決策

(一)學良軍ト楊虎城軍トノ間ニ分解作用ヲ起サシムルコ  
ト即チ楊ノ部下孫蔚如ヲ陝西主席トシ于學忠ヲ甘肅

主席トシ此ノ間ニ甘肅綏靖主任トシテ王樹常ヲ置キ

### 第一六號

(一)西安方面ノ形勢猶樂觀ヲ許サス中央政府ノ之ニ對スル前後(舊カ)

措置涉々シク進行セサル爲一般ノ政局ニモ少カラス不安ノ  
空氣ヲ釀シ居ル模様ニテ三中全會前後ノ各方面ノ動キハ相

當注意スル必要アリト思惟セラル處右ニ關シ許卓然其ノ  
他當地要人カ清水ニ内話スル所ヲ綜合スルニ大要左ノ通り

一、政府ノ改組ニ付學良ト政府トノ間ニ妥協アリタリトハ信  
セラレサルモ政局ノ安定ヲ圖ル意味ニ於テ政府部内ニ多

少ノ異動アルヤモ測リ難シ其ノ際問題トナルハ行政院長  
ノ更迭ニシテ當地ニ於テモ

(二)暫ク現狀ノ儘ニテ進ムナラン

(三)孔祥熙、汪精衛或ハ宋子文院長トナルヘシ

等種々ノ觀測行ハレ居ルカ孔ヲ此ノ儘トシ又ハ院長ニ昇

格セシムル等ノ方法ニ依リ同人ヲシテ從來通り行政院ヲ  
主宰セシムルコトハ最無難ナリ

(二)汪ノ復歸ハ政府部内ニ相當反對多ク殊ニ于右任、居正、  
孫科等ハ反對ノ急先鋒ニシテ其ノ實現ハ極メテ困難ト見  
ラレ居レリ之ニ反シ宋子文ハ財界ノミナラス西南、山東

等ノ地方軍閥ニモ關係ヲ着ケ胡漢民沒後ノ同一派ヲ抱込  
ミ最近ハ陳果夫、陳立夫トモ親密ナル關係ニ戻リ其  
ハ同人ノ就任ハ可能性最多カルヘシ  
二、宋カ政府部内ニ入込メハ張公權、吳鼎昌等ノ辭職ハ必至  
ト見ラレ大體歐米派ノ擡頭ヲ促スヘキモ元來宋ハ孔ト異  
ナリ責任感ノ強キ男ニテ話ノ筋道サヘ立テハ實行スル性  
質ナルヲ以テ日本側ノ態度及出方如何ニ依リテハ日本ト  
ノ協調ノ望全然ナキ譯ニハアラサルヘシ

## 三、中央政府カ今直ニ容共聯俄政策ヲ執ルヘシトハ信セラレ

ス

<sup>(3)</sup> 但シ一部ニハ内々斯ル意圖ヲ抱ク者モアリ今後ノ情勢殊

ニ日本ノ出方ニ依リテハ益々斯ル機運ヲ助長スルニ至ル

ヤモ測リ難シ此ノ際日本トシテハ暫ク事態ノ推移ヲ靜觀

スルニ止メ徒ニ支那ヲ刺戟シテ事態ヲ惡化スルカ如キ態

度ヲ執ラサルヲ得策トスヘシ

四、日支國交調整ノ交渉モ今日ノ如キ事態ニテハ繼續スルニ

由ナク若シ日本側ヨリ持出ストキハ政府ニ於テ之ニ取合

ハサルハ勿論却テ一般ノ誤解ヲ招クコトナリ面白カラ

ス少クトモ三中全會ノ形勢ヲ見テ善處スルノ外ナカルヘ  
シ  
五、要スルニ西安事件ニ於ケル學良ト蔣介石トノ妥協條件ノ  
有無等ハ問題ニアラス現實ニ動キツツアル支那ノ大局ヲ  
注視シ其ノ動向ヲ把握シテ其ノ對策ヲ樹ツルコト日本ト  
シテ執ルヘキ途ナリト思惟ス

北平、支及在支各總領事ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ  
廣東ヨリ香港ヘ、廈門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ  
シテ執ルヘキ途ナリト思惟ス

北平、支及在支各總領事ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ  
廣東ヨリ香港ヘ、廈門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ  
シテ執ルヘキ途ナリト思惟ス

888 昭和12年1月11日 在中國加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

昭和12年1月11日

在中國加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

楊虎城らの反中央的態度はますます鮮明にな

リ国民政府中央は武力による解決を決定した

との情報について

北平 1月11日後発  
本省 1月11日夜着

第二一號

西北軍事情勢ニ關シ十一日王芳亭ノ西田顧問ニ對スル内話  
要領左ノ通り

一、舊東北軍及楊虎城軍ハ中央ノ事變ニ對スル善後措置及學  
良ノ處分等ニ付不滿ヲ懷キ互ニ其ノ結束ヲ鞏固ニスル一  
方共產軍トノ關係緊密化ヲ計リツツアリ尙蔣介石ノ西安  
脫出ハ學良ト宋子文トノ話合ノミニテ行ハレ豫メ楊及學  
良軍將領トハ充分ノ打合ナカリシ趣ニシテ從テ學良個人

ニ對シテハ大ナル期待ヲ懸ケス兩軍自體ニ於テ將來ノ活  
路ヲ開カントスル傾向アリ兩軍ノ反中央態度ハ愈濃厚ト  
ナリソツアリ  
馮欽哉ハ中央側ニ傾カントスルカ如キ態度ヲ示シ居ルモ  
其ノ部下ハ楊虎城ノ指揮ニ從ヒ居ル事情アリ同軍ノ去就  
ハ豫測シ難シ  
二、陝西省内中央軍ノ狀況  
(イ)陝西省境ニ在ル毛炳文軍ハ四川方面ニ向ヒ脱出シツツ  
アリ

889 昭和12年1月13日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

蔣介石の妥協条件および西安事件後における  
国民政府の内部抗争に関する情報について

上海 1月13日後発  
本省 1月13日夜着

(ロ)胡宗南ノ司令部及一部軍隊ハ曩ニ蘭州ニ於テ共匪ノ策

動ニ依リ于學忠軍ノ爲武裝ヲ解除セラレタルカ其ノ主

力部隊ハ目下甘寧省境ニ於テ共匪軍ノ爲包圍セラレ居  
レリ

三、中央ハ舊東北軍及楊虎城軍トノ間ニ妥協策ヲ講シツツア

五千萬元補給方ヲ承諾セリ其ノ他ノ要求條件ニ付テハ宋子文、宋美齡ト學良間ニ折衝ノ結果

(一) 抗日ノ即時實行

(二) 政府ノ改組

(三) 容共

(四) 内戰停止

ノ四項目ニ取纏メ話合付キタルモノノ如ク蔣ハ之ヲ知ラサルニハアラサルヘキモ蔣歸寧當時發表シタル通り何等

ノ條件ニモ調印シタル事實ナシ但シ學良ハ來京後軍事裁判ニ附セラレ嚴重監視セラレ居ルコトハ西安ノ約束ニ反

ストテ宋等ノ意外トスル所ニテ宋子文ハ十二日奉化ニ至

リ學良監禁解除方ト共ニ汪兆銘ノ起用問題ニ付蔣ト懇談

セル筈ナリ

二、現在南京部内ノ抗争ハ相當尖銳化シ戴天仇、居正、何應欽、張群、熊式輝、葉楚僉ノ六名カ國民政府至上主義ヲ主張シ居ルニ對シ宋子文、孔祥熙、宋美齡及宋藹齡ノ四名カ中心トナリ蔣ヲ擔キツツアリ美齡ハ「ドナルド」案ヲ用ヒ「ノース・チャイナ・デイリー・ニュース」ニ右

内部抗争ニ關シ記事ヲ掲ケシメタルニ對シ(往電第五號)  
云、汪兆銘ハ歸國後奉化又ハ南京ニ於テ蔣ニ會見去就ヲ決ス  
ヘキモ高々中政會主席ニ就任シ陶履謙及陳樹人等一派ノ者ヲ要職ニ就カシムル位ナルヘク行政院長ハ孔祥熙可能性多キモ王正廷ヲ外交部長ニ起用スヘキ爲一般ノ人氣ヲ得サルヘク結局王寵惠カ院長兼外交部長トナルカ或ハ孔ノ下ニ王寵惠カ外交部長タルヘク右王ノ起用說ハ二十六日午後蔣カ部長連中ヲ集メタル席上洩ラシタル意見ニ依ル

府並ニ市黨部方面ヨリ内密聞込ミタル所ニ依レハ妥協條件ハ東北軍ノ保全(右ハ宋子文カ蔣救出ノ際張學良ニ對シ約束シタルモノナル由)楊虎城軍ニ對シ討伐ヲ行ハサルコト(于右任ノ斡旋ニテ楊ヨリ李志剛ヲ代表トシテ派遣シ來リ妥協條件ヲ提出セル由)及兩軍隊ニ對スル軍費ノ補助ヲ增額スルコト並ニ陝、甘兩省地方官ハ張、楊派ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコト及張、楊ニ於テ抗日即戰、東北失地恢復ノ時期ヲ延期シ中央ニ一任スルコトヲ以テ骨子トスルモノナルカ右妥協成立ノ上ハ外部ニ對シテハ飽迄張、楊共中央ニ服從シタルモノト宣傳シ中央ノ面子ヲ立テントスル方針ナル趣ナリ

右妥協工作ノ急速ニ進展セル内情ニ付支那人方面ニ於テハ宋子文ノ斡旋モ相當效アリタルヘキモ最近共產黨員續々西安方面ニ入込ミ共產軍モ逐次南下ノ形勢ニテ張、楊兩部モ漸ク其ノ壓迫ヲ感スルニ至リ俄ニ妥協ニ傾クニ至レルモノナルヘシト觀測シ居レリ

支、在支各總領事、北平ヘ轉電セリ

890 昭和12年1月15日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

楊虎城らに対する国民政府中央の妥協工作は

急速に進展中との情報について

上 海 1月15日後発  
本 省 1月15日夜着

第三八號

各方面ノ情報ヲ綜合スルニ十三日張學良奉化ニ赴キテヨリ

西安善後措置ニ關スル政治的工作ハ俄ニ進展シタル模様ニテ許建屏モ十五日館員ニ對シ西安事件ハ中央ノ努力ニ依リ

政治的解決ノ曙光見エ目下極力工作中ナリト語レルカ市政

參照)中央黨部等ハ外交部ニ對シ同新聞ノ查辦方ヲ申入レ又孔祥熙ノ機關紙タル大陸報カ蔣派ニ都合好キ記事ヲ載セサル爲美齡ヨリ同社長董顯光ニ對シ嫌味ヲ述ヘ居ル事實モアリ

三、張群ハ辭職ヲ決心シ十一日ノ紀念週會議ニ陳介ヨリ非公式ニ之ヲ通報シタルカ右ハ美齡等カ西安ニアル際張及吳鐵城カ飛行機ニテ西安ニ赴キ學良ノ主張支援方策動セリト宣傳シ居ルニ氣ヲ腐ラシ居ル事情モアル爲ナリ

四、<sup>(3)</sup>西安事件ニ際シテハ英國ハ宋及孔ニ援助方ヲ申出テ又「ド」ヲ西安ニ派シタルカ右ハ英國カ支那ノ内亂ヲ欲セサル爲ニシテ今後ノ出方モ右方針ニテ進ムモノト考ヘラル

891 昭和12年1月16日 在上海河相總領事より

有田外務大臣宛(電報)

国民政府中央と楊虎城らとの間に妥協空氣濃厚との見方に対しなお交渉は停滞状況にある

との情報について

上 海 1月16日後発  
本 省 1月16日後着

第一三號

支發閣下宛電報第三八號ニ關シ

最近南京對楊虎城トノ間ニ西安問題ニ關スル妥協空氣濃厚トナリ政治的解決ノ曙光見エタルカ如ク一般ニ傳ヘラレ居ル處右ニ關シ十六日館員カ市府方面ヨリ得タル情報ニ依レハ妥協協議ハ主トシテ目下奉化ニ參集セル張學良及楊虎城代表ト蔣介石トノ間ニ行ハレツツアルカ楊虎城側提出ノ條件中ニ(冒頭往電参照)

(1) 抗日實行延期ハ差支ナキモ其ノ時期ヲ明示スヘシ

(2) 何應欽、張群、張公權、吳鼎昌、吳鐵城等現國民政府部内ノ所謂知日派ノ即時免職

等ノ強硬要求アリ右ハ中央トシテ俄ニ應諾シ能ハサル所ニ

シテ妥協交渉モ之カ爲尙行脳ノ狀態ニシテ加フルニ何應欽一派ノ強硬主張モアリ中央ニ於テモ全然武力解決ノ方針ヲ拠棄シタル次第アラス目下潼關以東ニ兵力ヲ集中シ西安ニ對シ壓迫ヲ加ヘツツアルカ最近該方面中央軍ニ對シテモ共產軍ノ巧妙ナル宣傳行ハレ即時抗日、内戰絕對反對等ノ主張ヲ爲ス者現ハレ戰意一般ニ鈍リツツアリ旁結局何等力謀魔化シニ依リ妥協成立スルニ至ルヘシトノコトナリ御参考迄

支、北平、在支各總領事へ轉電シ上海大使へ轉報セリ  
~~~~~  
892 昭和12年1月19日 在上海河相總領事より  
有田外務大臣宛(電報)  
楊虎城らに対し国民政府中央は妥協による平和的解決を志向との情報について

上 海 1月19日前着  
本 省 1月19日前着

第一七號

十七日王長春(出所祕)カ西安事件ニ際シ楊虎城等ノ爲ニ陝西ヨリ追出サレ日下上海ニ滯在中ノ元陝西省主席邵力子

(邵ハ中央ノ汪精衛出迎委員ノ一人トシテ香港ニ赴キ汪ト共ニ歸滬セルモノナリ)ヨリノ内密聞込トシテ館員ニ爲セル時局談中參考トナルヘキ點左ノ通り因ニ王長春ハ邵力子トハ親戚關係ナリ

一、邵力子ハ蔣介石ヨリノ招電ニ依リ對陝西問題ニ關スル意

見具申ノ爲十八日目下滯滬中ノ楊虎城代表李志剛、東北

軍代表米春霖、鮑文樾ト共ニ奉化ニ赴クコトトナリ居レリ

二、邵力子ハ蔣介石ヨリノ招電ニ依リ對陝西問題ニ關スル意

見具申ノ爲十八日目下滯滬中ノ楊虎城代表李志剛、東北

軍代表米春霖、鮑文樾ト共ニ奉化ニ赴クコトトナリ居レリ

三、中央ニハ尙陝西問題ノ武力解決ヲ主張スル者ナキニアラルモ目下ノ中央ニハ討伐ノ力ナク大勢ハ妥協ニ依リ

和平解決ヲ爲スニ殆ト決定シ居レリ又右妥協解決ハ必然

的ニ支那ノ容共政策採用ナリトテ日本側ノ反對壓迫アル

ヘキモ

(2) 之ニ對シテハ何等カノ方法ニ依リ日本側ノ了解取付ヲ爲スヘシトテ目下之カ對策考慮中ナリ(即チ國民政府ハ依然トシテ國內ニ對シテハ擬裝抗日及日本ニ對シテハ擬裝

親善政策ヲ採ル方針ナルカ如シ)  
三、四川ノ劉湘ハ十五日附ヲ以テ内戰反對及中央ノ陝西問題ニ對スル明確ナル態度表明方要求ノ通電ヲ發シ楊一派支

893 昭和12年1月19日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

西安事件後も国民政府の内外政策および対共

産党態度は不变との翁文灝内話について  
本 省 1月19日後着

第四四號

須磨ヨリ

十九日本官歸朝挨拶ノ爲翁文灝訪問ノ際翁ハ政局ノ動向並ニ西安事變善後處置ニ關シ本官ノ質問ニ答へ左ノ通り内話石ノ指示ヲ受ケ昨日歸寧シタル次第ナルモ其ノ節蔣ハ自分ニ對シ行政院ノ組織ハ現状ノ儘トシ何等ノ變更ヲ加フル意思ナキ旨明言セリ

三、政府行政部ノ對内外政策ハ西安事變ニ依リ變更スルコトナク既定ノ方針通り進ムコト言フヲ待タス右ハ各方面ヨリ觀察シテ容易ニ了解スルコトヲ得ヘシ

三、政府ノ共匪ニ對スル態度モ從來通りニシテ容共政策ノ如キハ絕對ニ容認シ難キ次第ナルカ現在西北ノ實情ハ東北軍、楊虎城軍及共產軍ノ三者カ中央ノ討伐ニ依リ追詰メラルルトキハ合體シテ抵抗スル惧アリ然ルトキハ二十數萬ノ勢力トナリ之カ討伐容易ナラサルニ至ルヲ以テ現在ノ工作トシテハ平和的ニ解決シ成ルヘク敵ヲ最小限度ニ止メ徐ニ之力殲滅ヲ圖ラントスルニアリ最近楊虎城及于學忠ニ於テモ漸次中央ノ意思ヲ了解シ既ニ王樹常及孫蔚

軍、楊虎城軍及共產軍ノ三者カ中央ノ討伐ニ依リ追詰メラルルトキハ合體シテ抵抗スル惧アリ然ルトキハ二十數萬ノ勢力トナリ之カ討伐容易ナラサルニ至ルヲ以テ現在ノ工作トシテハ平和的ニ解決シ成ルヘク敵ヲ最小限度ニ止メ徐ニ之力殲滅ヲ圖ラントスルニアリ最近楊虎城及于學忠ニ於テモ漸次中央ノ意思ヲ了解シ既ニ王樹常及孫蔚

如ノ就任ヲ承諾シ來リ殘ル問題ハ軍隊ノ駐屯地問題及張學良ノ復歸問題ノミトナリ現ニ双方ノ代表往來シテ種々斡旋シ居ル次第ナリ當方ノ得居ル情報ニテハ東北軍ノ將領連ニテ共產黨員タルモノハ殆トナク楊虎城軍ノ部下ニハ共產黨員モ混入シ居ル趣ナルニ付前記三者ヲ漸次引離シ行クコトニ努力シ居ル次第ナリ  
上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

894 昭和12年1月23日 在中國川越大使より  
昭和12年1月23日 有田外務大臣宛(電報)

楊虎城らの態度強硬により平和的解決の望み  
は薄いとの観測について

第五〇號  
往電第三八號ニ關シ  
當方面ニ於ケル情報ヲ綜合スルニ其ノ後楊虎城等ハ南京側ニ對シ西北ノ既成事實ヲ承認スヘシトカ同事件ノ善後措置

895 昭和12年1月25日 在中國川越大使より  
昭和12年1月25日 有田外務大臣宛(電報)  
抗日を標榜している以上は楊虎城など反中央勢力および共產軍の討伐は當面困難との見通しについて  
上 海 1月25日後発  
本 省 1月25日後着

上 海 1月25日後発  
本 省 1月25日後着

(<sup>(1)</sup>) 第五三號  
往電第五〇號ニ關シ

諜報ニ依レハ且下共產軍ハ甘肅ノ高臺ヲ中心トシ徐向前ノ主力部隊約一萬陝西省延川、延長一帶、蕭克、賀龍部ノ主力(賀龍ノ一部ハ鄜縣、洛川ニアリ)保安、延安附近ニ朱德部、蒲城、三原、咸陽地方ニ毛澤東及彭德懷部、藍田、商縣一帶ニ徐海東部等計約四萬アリ西安ニモ相當有力ナル共產黨員侵入シ居ル處是等共產黨及軍ハ本來ノ主張ヲ隱シ抗タル嫌アルモノ此ノ機會ヲ利用シ人民戰線ニ對抗シテ國民戰線ノ主張強マリツツアル現状ナリ  
支及在支各總領事、北平へ轉電セリ

精銳ナル武器ヲ得勢力極メテ强大トナリ秩序モ亦整然タルモノアリ之ニ對シ蔣介石側トシテハ西安ニ於テ學良及楊虎

城ニ與ヘタル言質モアリ且蔣ノ機密文書ヲ彼等ニ握ラレ居ル關係モアリ

楊等ノ中央服從ノ名分サヘ通ル方法アレハ和平解決ヲ急キ

居ル次第ナルモ一方又南京主戰派ニ於テモ張、楊部ノ主張

カ表面抗日ニアル爲之方討伐ノ名目立タサルノミナラス張、

楊部ニ西安ノ現銀及軍需品ヲ差押ヘラレ且マカリ間違ヘハ

假令一時トハ言エ共產軍トノ合流ヲ餘儀ナクセシムル危險

モアルヲ以テ討伐ニ移ルトモ到底短期間にニ成功ノ見込立

タス其ノ間共產軍ノ山西又ハ河南、四川方面ヘノ進出、各地方反動勢力ノ活動等ノ惧多分ニアル爲今尙討伐ニ着手スルコト能ハス舊東北軍ノ買收ニ依リ同軍ト楊虎城部トノ離間又ハ楊虎城部ノ切崩等政治手段ニ依リ解決ニ努メ居ル内情ナリ尙汪精衛ハ二十四日奉化ニ赴キタルカ容共反對西安討伐實行ヲ主張シ居ル關係上蔣介石ト合ハス左リトテ其ノ主張ヲ枉ケル場合ハ政治的立場ヲ失フコトトナリ或ハ同人ハ再ヒ外遊ノ外ナキニアラスヤトノ說モアル由

支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

第五五號  
諜報ニ依レハ西安兵變後數名ノ蘇聯邦人新疆ヨリ西安ニ飛來シ引續キ活躍中ニシテ支那共產軍乃至楊虎城ノ背後ニ蘇聯邦ノ觸手カ動キ居ルコト略明瞭トナリタルヲ以テ廿二日外交部ハ蔣介石ノ命ニ依リ在蘇聯邦大使ニ對シ蘇聯邦政府カ現在支那共產軍ヲ援助シツツアルヤ又今後共產軍トノ關係ヲ斷ツヘキヤ否ヤ等蘇聯邦ト支那共產軍トノ關係ニ關シ同政府ノ明白ナル回答ヲ求ムヘキ旨訓令シタル趣ナリ右聞込ノ儘支、北平、天津ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

西安におけるソ連の影響は明白のため外交部  
が同國と中國共產軍との關係をソ連側に照会  
中との諜報について

上海 1月26日後発

本省 1月26日夜着

896 昭和12年1月26日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

西安におけるソ連の影響は明白のため外交部  
が同國と中國共產軍との關係をソ連側に照会

中との諜報について

897 昭和12年2月3日 在漢口三浦總領事より 林外務大臣宛(電報)  
楊虎城らに対する武力行使やむなしとの観測  
および張學良の西安脱出状況に関する情報について  
ついて  
漢口 2月3日後発  
本省 2月3日後着  
第五一號

干學忠ヲ始メ東北軍ノ將領中ニハ内心中央ニ服從スル決意ヲ有スル者少カラサルモ彼等ハ匪區ニ駐屯ノ折環境上自己ノ意思ヲ明示シ難ク自然洞ヶ峠ヲ裝フ者多キカ故彼等トノ疏通ヲ圖リ其ノ色彩ヲ判然タラシメ楊軍及共產軍ノ討伐ニ取懸ルコトトナル模様ナリ

三、且下甘肅、陝西ニ於ケル共產軍ハ外間傳ヘラルル程ノ多數ニアラス客年九月四川ヲ經テ甘肅ニ入り毛澤東ト合流セル朱德、徐向前、賀龍、蕭克ノ共產軍ハ途中討伐軍ノ追撃ヲ受ケ勢力半減セシ筈ニテ又朱、毛合流後モ甘肅寧夏ニ於テ回教徒カ教義上共產黨ト相容レス頑強ニ抵抗セル爲意ノ如ク勢力ヲ擴張スルヲ得ス大体五、六萬ノ實力ヲ維持セル模様ナルカ最近ハ地方ノ青年ヲ狩集メ勢力稍增大シ居レリ尙楊軍ハ二萬ヲ越エサルヘシ

四、只今中央ハ表面極力和平解決ヲ標榜シ居レルモ右ハ此ノ際内戦ニ兵力ヲ損スルコトハ努メテ之ヲ避クヘシトスル一部ノ考方ニ支配セラレタル結果ト言ハシヨリハ寧ロ西安ヨリ楊軍ヲ撤退セシメ多數無辜ノ住民ヲシテ塗炭ノ苦ヲ嘗メサラシメントスル用意ト一方此ノ間ニ於テ戰略的シムルコトアルヘキヲ充分考慮ニ入レ着々準備中ナルカ表ヲ相手トシテ折衝中ナリ

二、然レトモ楊軍ト共產軍トハ既ニ全ク合流シ居リ潼關會議ハ御承知ノ通り一進一退ニテ到底堺明カサルカ故結局ニ於テハ武力ヲ行使スルノ已ムナキニ至ルモノト觀測セラレ居リ中央ニ於テモ斯カル場合楊軍ヲシテ一層共產化セシムルコトアルヘキヲ充分考慮ニ入レ着々準備中ナルカ

至當ナルヘシ

五、然ルニ巷間右ヲ以テ蔣介石ハ脱險ノ際或ハ張學良ニ對シ例ノ八箇條ノ要求ヲ或程度迄容レ共產軍トノ妥協ヲ容認セルニアラスヤトノ說ヲ爲ス者アリ最近ニ至ル迄何故學良カ蔣介石ニ附イテ入京セルヤ判明セサリシカ故斯カル

風説ヲ生スルニ至レル次第ナルカ今回始メテ知リ得タル真相ニ依レハ實ハ學良ハ事件直後取巻中ノ赤化分子ノ過激ナル言動ヲ見聞スルニ及ヒ漸次空恐ロシクナリ内心何トカシテ西安ヲ脱出セント欲シ宋子文ノミナラス宋美齡

迄呼出シテ自己ノ生命ノ保障ヲ蔣介石ニ執成シテ貰ヒ體好ク西安ヨリ逃出シタル經緯ナルコト判明セリ從テ蔣カ

右要求ヲ容レタリト爲スカ如キハ當時ノ學良ノ心理ヲ知

ラサリシ者ノ想像力乃至ハ共產黨ノ宣傳ニ過キス中央トシテハ飽迄既定ノ剿共方針ヲ堅持シ例ヘハ潼關會議ニ於テモ共產軍ノ代表參加セハ會商ニ應セサル決心ナリ若シ右既定方針ニシテ今後轉換ヲ見ルカ如キコトアランカ多年莫大ナル犠牲ヲ拂ヒテ繼續セル剿共ノ治績ハ無意味トナリ南京政府ハ國民ノ信望ヲ失墜シ瓦解スルコト必定ナレハ假令如何ナル策動アルモ共產軍ノ容認、共產軍トノ

妥協ノ如キハ全ク問題トナラサルヘシ  
(右季ノ内話ハ何應欽、何成濬等ノ意嚮ヲ反映シ居ルモノト認メラル)

支、上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

ト認メラル)

898 昭和12年2月4日

在中国川越大使より  
林外務大臣宛(電報)

三中全会前に西安問題を解決したいとの希望  
を孔祥熙内話について

南京 2月4日後発

本省 2月4日夜着

第八七號

四日田尻孔祥熙往訪ノ際西安事件ノ解決此ノ儘永引キ三中全會ニ於テ討議セラル様ノ事態トナラハ或ハ容共抗日ノ氣勢益々昂マルカ如キ懸念ナキヲ保シ難キ様察セラレ此ノ點我方ニ於テモ注意シ居ル次第ナルカ如何ト尋ネタル處反共ハ國策トシテ決定シ居ルヲ以テ問題ナキモ抗日ニ付テハ自分等モ憂慮シ居ル所ニシテ出來得レハ三中全會迄ニ西安事件ヲ解決シ度キモ今早急ニ武力討伐ヲ行フ時ハ多數ノ中

央軍ヲ移動セシムルコトトナリ其ノ間隙ニ乘シ種々策動スル者出テ來リ全國一般ニ收拾困難ナル事態ヲ現出スル惧アルニ付隱忍シテ平和裡ニ解決ヲ見ル様努力シ居リ最近漸次

解決ノ方向ニ進ミ居リタル處昨日ハ王以哲力殺戮セラルルカ如キ暴動起リ尙當分解决困難ト思惟セラル處萬一三中全會前ニ片付カサレハ同會議ニ於テ論議セラルルコトモアリ得ヘク其ノ際ハ政府ニ於テ充分注意スヘキモ會議ハ約三百人ノ多數ナルヲ以テ其ノ間ニハ過激ナル議論ヲ吐ク者モ出ツヘク日本新内閣ニ於テモ同情的態度ヲ以テ支那ニ臨ミ徒ニ民心ヲ刺戟スルカ如キコトナキ様希望ニ堪ヘスト語レル趣ナリ

第八九號

西安方面ノ狀況ニ付于右任ハ五日清水ニ對シ左ノ通り語レル趣ナリ

一、西安事件解決ニ付テハ中央ハ依然東北軍ニ對スル分化工作ヲ進メツツアル處去ル二日孫銘九等ノ過激分子ハ楊虎城宅ニ於テ會議中ノ張、楊部將領連ヲ包圍シテ中央反對ヲ迫リ當時楊虎城ノ說得ニ依リ一時退散シタルカ會議ヲ終リテ歸宅セル王以哲西北剿匪總司令部參謀處長徐芳同交通處長蔣斌同副長宋學禮等ヲ殺害セル事件發生シ前途樂觀ヲ許ササル情勢トナレリ

二、右暴動ノ首魁者タル孫銘九ハ共產黨員ナリヤ否ヤ確カナ

ラサレトモ其ノ言動ヨリ推シ人民戰線派ニ屬スルコト疑

ナク元來西安事變後人民戰線派ノ連中ハ續々西安ニ入込

ミ一方南方ニ於テハ香港ヲ中心トシテ活動シ最近種々ノ

出版物等モ發行セラレ居レリ

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

昭和12年2月5日

在中國川越大使より  
林外務大臣宛(電報)

旧東北軍の過激分子による王以哲殺害事件お

ついて

よび西安方面の赤化拡大状況に関する情報に

(東北軍、楊虎城軍及共產軍)ヲ主張シ盛ニ聯合抗日ノ宣傳「ビラ」ヲ貼出シ宣傳ニ努メツツアリ同方面ニ於テハ國民黨員ハ退去シ一般住民ノ避難スル者多ク此ノ儘推移スルニ於テハ共產軍ノ勢力漸次增大スルニアラスヤト憂慮セラル

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

上海大使ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

~~~~~

900 昭和12年2月8日 在漢口三浦總領事より 林外務大臣宛電報

中央軍の西安入城および楊虎城らの中央服従

態度表明について

漢口 2月8日後発  
本省 2月8日夜着

第五五號  
往電第五一號ニ關シ

八日ノ當地漢字紙ハ中央軍ノ先頭部隊ハ七日午後西安ニ入城シ顧祝同モ八日西安ニ入り行營ヲ設置スル筈ニテ曩ニ環境上中央服従ノ表示ヲ躊躇セル張、楊兩部ノ高級將領中

ニモ第一〇六師長沈克、騎兵第一〇師長檀自新ノ中央服從通電ニ相踵テ楊部警備第二旅長、同第三旅長及孫蔚如ノ第四九旅長ノ如キ中央服従ヲ表明セル旨報シ居レル處右ニ關シ當地行營ニ問合セタルニ對シ左ノ通り内報セリ

一、潼關會議ニ於テ中央ハ極力楊等ノ覺醒ヲ促シ十年來堅持セル剿匪ノ方針ハ飽迄モ之ヲ繼續セサルヘカラサル所以

ヲ說キ若シ楊等ニシテ中央服従ノ意嚮ヲ有スルナラハ其ノ證據トシテ先ツ軍隊ヲ撤退スヘキ旨說示セル處楊及東北軍ノ將領ハ内々過激分子ノ跳梁ニ危惧ノ念ヲ抱キ殊ニ

王以哲ノ殺害ニ依リ一層心境ノ變化ヲ來タシ西安ヲ撤退スルコトトナレリ

二、楊等ハ先ツ孫銘九、苗劍秋(一月七日附普通第一三號拙信參照)等ノ過激分子四名ヲ銃殺シテ中央服従ノ誠意ヲ披瀝セル一方事變以來保管セル中央ノ現銀、法幣及武器ヲ其ノ儘返還セリ

三、依テ中央ニ於テハ楊ヲ現職ノ儘引續キ陝西ニ駐メ置キ別ニ之ヲ處分セサルコトトシ部下ノ過激分子ヲ一掃シテ再ヒ之ヲ剿匪軍トシテ使用スル方針ナリ

四、尙西安ニ入城セルハ第二師、第六師、第四三師、第七六

ハ中央ハ終始寛大ナル態度ヲ以テ臨ミ居ルニ付楊、張部將領モ中央ヲ信シ若シ一月三日ノ中央ノ命令ヲ遵奉スルニ際シ細部的ニ困難ナル問題アラハ顧主任ト接洽スヘキ旨ヲ說示シ更ニ一月十九日蔣ハ楊虎城宛書翰ヲ李志剛ニ手交シ同様ノ勸告ヲ爲セリ然ルニ二十三日ニ至ルモ態度曖昧ナリシ爲蔣ハ李志剛ニ對シ各將領カ二十四日中ニ態度ヲ決定セサレハ中央背信ト認メ和平解決絶望ト看做スヘキ旨告ケタル處二十四日ニ至リ漸ク米春霖、謝珂ノ兩名ヲ潼關ノ顧祝同ノ許ニ派シ來リ命令接受ノ態度ヲ表示シ同日ヨリ三十一日迄ニ兩者ノ間ニ

(一)軍隊撤退ノ際双方ヨリ監視團ヲ組織シ部隊ノ先頭ニ立タシムルコト

(二)撤退ニ際シ若干ノ軍費ヲ前渡スルコト

(三)學良部ノ一部ヲ西蘭公路ニ楊虎城ノ一部ヲ西安ニ駐屯セ等ノ協議纏マリ二月二日部隊ノ移動ヲ開始シ四日ヨリ中央

軍前進ヲ始メタリ七日現在ノ中央軍位置ハ大體

(一)隴海路西安以東ハ壩橋ニ達シ(西安ノ東二十里)(八日西

安着ノ豫定)

### 西安事件善後措置の経過概要に関する何応欽

報告について

901 昭和12年2月9日 在中國川越大使より 林外務大臣宛電報

本省 2月9日夜着

第九八號

<sup>(1)</sup> 八日何應欽ハ中央黨部紀念週ニ於テ陝甘善後措置經過ヲ詳細報告シタル趣ノ處其ノ中参考トナルヘキ點左記ノ通り  
一月中旬米春霖、李志剛兩人ハ屢蔣介石ト會見シタルカ蔣

(一) 西安以西ハ興平ニ達シ(八日咸陽着ノ豫定)

(二) 渭河以北ハ龍陽鎮、田市鎮ノ線ニ達シ

(四) 陝南方面ハ商縣藍田ノ線ニ至リ學良部ハ七日迄ニ富平、

交口鎮ノ線及高陵、永壽、邠縣方面ニ撤退シ楊虎城ノ大

部ハ三原、洛川一帶及高陵附近ニ撤退セリ

二月一日撤退命令ニ服セサル孫銘九過激分子ハ叛亂ヲ起シタルモ翌日鎮壓セラレ同時ニ蒲城ノ第一〇師(師長檀自新)及鳳翔ノ第一〇六師(師長沈克)ハ西安トノ關係脫離ヲ聲明シ中央部隊ト聯絡スルニ至リ西安問題ハ一段落ヲ告ケタリ上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

902 昭和12年2月10日 在中國川越大使より 林外務大臣宛(電報)

中央軍の西安入城により西安事件は一段落との張群内話について

上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

テ三中全會ニ於テモ大シタ論議ヲ見シテ濟ム模様ナリト語レリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

## 3 国共合作問題

903 昭和12年1月14日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

西安での内戦発生を回避するため和平會議開催

催方中国共産党提案について

上 海 1月14日後発  
本 省 1月14日夜着

第三五號

十四日ノ「ノース、チャイナ、デーリー、ニュース」ハ最

近西安ヨリ着滬セル者ノ談トシテ支那中央「ソビエト」政

府及共産黨中央執行委員會ヨリ南京及西安ノ諸要人宛西安

危機解消ノ爲南京ニ各派ノ代表ヲ網羅スル和平會議開催方

ヲ提唱セル通電(蔣介石釋放前ニ發セラレタルモ共産黨宣傳部ニテ公表セラレタルハ最近ナリ)ヲ掲載セルカ提案ノ

内容左ノ通り

一、滻關ヲ境ト爲シ南京軍ハ陝西ニ進出セス西安抗日軍ハ陝

西ニ居残リ共ニ和平會議ノ解決ヲ俟ツヘシ

二、南京ハ擴大會議ヲ召集シ南京、西安ノ代表者ノ外各黨、

南京 2月10日後発  
本省 2月10日後着

第一〇四號

西安方面ノ狀況ニ關シ九日張群ハ本使ニ對シ中央軍宋希濂部ハ八日西安ニ入城シテ其ノ守備ニ任シ西安行營主任顧祝同ハ九日正午西安ニ到着シ隴海線沿線ハ全部中央軍ノ手ニ歸シ學良、楊虎城ノ部隊ハ渭水北岸ニ撤退シ今後ハ東北軍ヲ甘肅ニ、楊虎城軍ヲ陝北ニ夫々移駐セシムレハ事件ノ解決全ク完了スル次第ナルカ東北軍ノ一部(殊ニ劉多荃部)及楊虎城ノ部下ニハ今猶中央反對ノ態度ニ出テツツアル分子モアリ右移駐カ急速圓滿ニ行ハルヤ否ヤ疑問ナルモ西安事件ハ之ヲ以テ一段落ヲ告ケタルモノト言フモ差支ナク從

テ三中全會ニ於テモ大シタ論議ヲ見シテ濟ム模様ナリト語レリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

904 昭和12年2月6日 在漢口三浦總領事より 林外務大臣宛(電報)

西安事件後における中国共産党的活動に関する諜報について

武官より梅津陸軍次官、西尾參謀次長宛電報第

六四号

付記 昭和12年1月6日付移牒、在漢口長(勇)駐在

國共合作に関する中国共産党方針について

漢口 2月6日前発

本省 2月6日後着